

廻り屋遺跡 発掘調査報告書

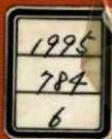
財団法人
山形県埋蔵文化財センター



6-1995-784-01

1995

財団法人 山形県埋蔵文化財センター





1995 - 784

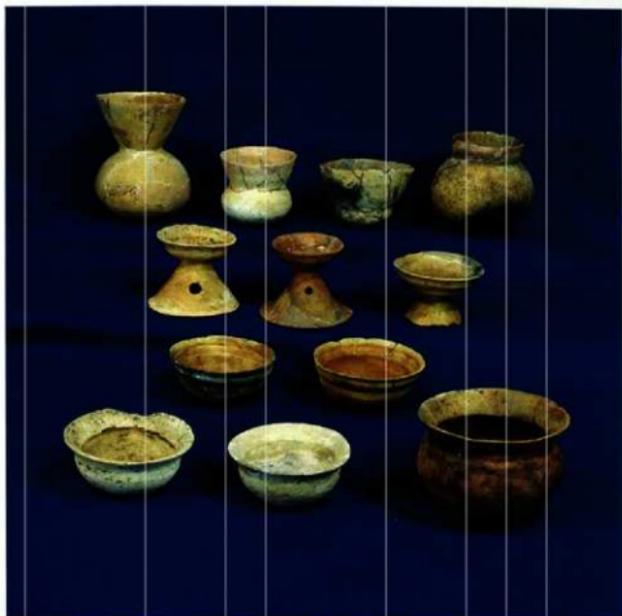
廻り屋遺跡
発掘調査報告書

平成7年3月

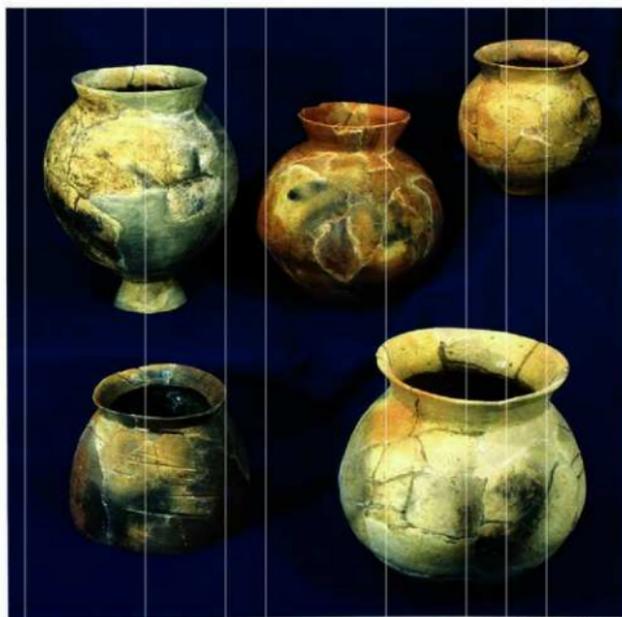
財団法人 山形県埋蔵文化財センター



1995 - 784



14号住居出土土器



14号住居出土土器

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが平成6年度に発掘調査を実施した廻り屋遺跡の調査結果をまとめたものです。

廻り屋遺跡は山形県の南西部に位置する西置賜郡白鷹町にあります。西置賜郡北部に位置する白鷹町は、県内を縦走する最上川の東西に広がる町域で、西方に朝日山系の山々が連なり、稜線と緑の自然豊かな景観の地域です。

調査では、古墳時代から平安時代にかけて竪穴住居跡や掘立柱建物跡が検出され、それぞれの時代の遺構・遺物を包含する複合遺跡であることが明らかになりました。昨年度当センターが発掘調査を実施した、岡ノ台・黒藤館両遺跡との関連も深く、この地域の古墳時代の生活を知るうえでの貴重な資料を得ることができました。

埋蔵文化財は祖先が長い歴史の中で創造し育んできた貴重な遺産といえます。私たちは国民的財産の文化財を大切に保護し、さらに郷土の歴史の中で培われた文化を後世に引き継がねばなりません。一方、平和で豊かなくらしは私たちが等しく切望しているところです。近年、高速自動車道やバイパス、農業基盤整備事業など国県等の事業が増加していますが、これに伴い事業区域内で発掘調査を必要とする遺跡が増加の傾向にあります。

事業区内の遺跡の調査は、埋蔵文化財保護と開発事業実施のため、適切かつ迅速に行われることが今日求められています。こうした要請に適切に対処するとともに埋蔵文化財調査体制の充実を図ることが急務とされ、平成5年4月に財団法人山形県埋蔵文化財センターが設立されました。職員一同、県民と関係各位の要望に応え本県の埋蔵文化財保護のため一層の努力をいたす所存です。今後とも当センター発足の目的が遂行されるようご支援ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

本書が埋蔵文化財に対する保護思想の普及・学術研究・教育活動などにおいて、皆様のご理解の一助となれば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査にご協力をいただきました地元の方々をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます。

平成7年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター
理事長 木場 清 耕

例 言

- 1 本書は、一般国道287号線道路改良工事（群馬地区）に係る「廻り屋遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は山形県土木部の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 調査の要項は下記のとおりである。

遺跡名 廻り屋遺跡(DSTMG) 平成元年度登録
所在地 山形県西置賜郡白鷹町大字荒砥甲字廻り屋
調査主体 財団法人山形県埋蔵文化財センター
調査期間 発掘調査 平成6年4月1日～平成7年3月31日
現地調査 平成6年7月25日～平成6年10月14日 51日間
調査担当者
調査研究課長 佐々木洋治
主任調査研究員 佐藤 庄一
調査研究員 鈴木 良仁
嘱託職員 川田 嘉信

- 4 発掘調査及び本書を作成するにあたり、山形県土木部、山形県長井建設事務所、山形県教育委員会、白鷹町教育委員会、西置賜地域シルバー人材センター等関係機関の協力を得た。ここに記して感謝申し上げます。
- 5 本書の作成・執筆は鈴木良仁、川田嘉信が担当した。編集は尾形典典、須賀井新人、水戸弘美、真壁建が担当し、全体について佐々木洋治が監修した。
- 6 現地調査における遺構平面図(1/40・1/100)の作成は写真測量によって行ったものであり、その業務を国際航業株式会社に委託している。
- 7 出土遺物、調査記録類については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

凡 例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。
SB…独立柱建物跡 SE…井戸跡 SK…土坑
SP…単独のピット ST…竪穴住居跡 SX…性格不明遺構
EB…柱穴 EL…伊跡
RM…金属製品 RP…完形・一括土器 RQ…石製品
- 2 遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書での番号として踏襲した。
- 3 報告書執筆の基準は下記のとおりである。
 - (1) 調査概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は磁北を示している。
 - (2) グリッドの南北軸は、N-29°-Wを測る。
 - (3) 遺構実測図は1/40・1/80・1/100縮図で採録し、各挿図毎にスケールを付した。
 - (4) 土層断面図中のスクリーントーンは、石・礫または焼土を示す。
 - (5) 遺物実測図・拓影図は1/2・1/3・1/4で採録し、各タスケールを付した。遺物図版については、任意の縮尺とした。
 - (6) 土器拓影図で、外面部分は左側、内面部分は右側に表示している。
 - (7) 遺物図版中の番号は、挿図番号を示している。
 - (8) 遺物計測表中の()内の数値は、図上復元による推定値、または残存値を示している。また、出土地点欄の層位で、Fは遺構覆土の土層、ローマ数字(I~V)は遺跡を覆う土層(基本層序)を示している。
 - (9) 遺構覆土の色調の記載については、1987版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帳」に拠った。

目 次

I 調査の経緯	
1 調査に至る経過	1
2 調査の方法と経過	1
II 遺跡の立地と環境	2
III 遺構と遺物	4
IV まとめ	38
報告書抄録	40

挿 図

第1図 遺跡位置図	1	第15図 遺構実測図	20
第2図 土層断面図	2	第16図 遺構実測図	21
第3図 調査概要図	3	第17図 遺物実測図	22
第4図 遺構配置図	5・6	第18図 遺物実測図	23
第5図 遺構実測図	10	第19図 遺物実測図	24
第6図 遺構実測図	11	第20図 遺物実測図	25
第7図 遺構実測図	12	第21図 遺物実測図	26
第8図 遺構実測図	13	第22図 遺物実測図	27
第9図 遺構実測図	14	第23図 遺物実測図	28
第10図 遺構実測図	15	第24図 遺物実測図	29
第11図 遺構実測図	16	第25図 遺物実測図	30
第12図 遺構実測図	17	第26図 遺物実測図	31
第13図 遺構実測図	18	第27図 遺物実測図	32
第14図 遺構実測図	19	第28図 土器分類図	39

表

表-1 遺物観察表(1)	33
表-2 遺物観察表(2)	34
表-3 遺物観察表(3)	35
表-4 遺物観察表(4)	36
表-5 遺物観察表(5)	37

図 版

図版1 調査区全景	図版11 出土遺物(2)
図版2 調査区全景	図版12 出土遺物(3)
図版3 調査風景	図版13 出土遺物(4)
図版4 遺構写真(1)	図版14 出土遺物(5)
図版5 遺構写真(2)	図版15 出土遺物(6)
図版6 遺構写真(3)	図版16 出土遺物(7)
図版7 遺構写真(4)	図版17 出土遺物(8)
図版8 遺構写真(5)	図版18 出土遺物(9)
図版9 遺構写真(6)	図版19 出土遺物(10)
図版10 出土遺物(1)	図版20 出土遺物(11)

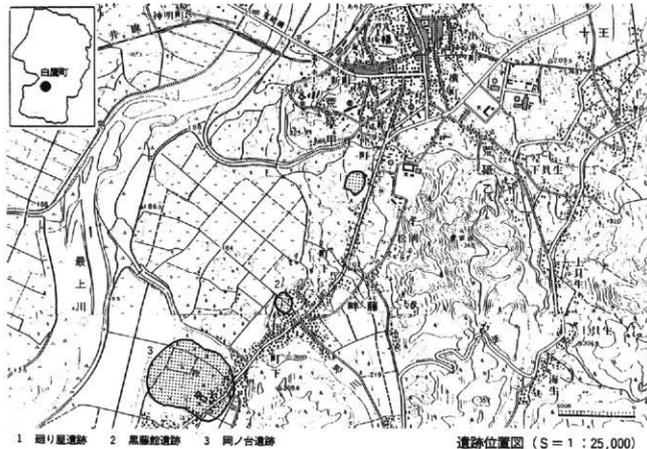
I 調査の経緯

1 調査に至る経緯

今回の廻り屋遺跡の発掘調査は、一般国道287号道路改良工事にともなうて行われた。本調査に先立って、平成5年10月に山形県教育委員会によって道路用地内について遺跡の規模や性格などより詳しい内容を知るための試掘調査が行われた。その結果、廻り屋遺跡は古墳時代と平安時代の複合遺跡であることが確認された。試掘調査の内容をもとに関係機関による保存協議が行われた結果、現状保存が困難な部分について山形県埋蔵文化財センターが県から委託を受けて発掘調査を行い、記録保存をする事となったものである。

2 調査の方法と経過

今回の発掘調査は現状保存が困難な道路予定路線内の3,000㎡を対象として行い、道路予定線のセンター杭を基準として南北約140m・東西約18mの調査区を設定した。調査区全体に5m四方のグリッドを設定し、さらに南北が140mと長いため、北から50mごとにA・B・Cの3地区を設定した。包含層出土遺物はグリッド単位で取り上げ、遺構に関するものは必要に応じて出土地点を記録した。調査は7月25日から開始し、最初に調査区の設定を行い、重機を用いて調査区内の表土を除去した。その後面整理と遺構検出を順次行った。検出した遺構から精査を行い、全行程において必要に応じて記録を取り、10月14日に現地調査を終了した。途中10月12日に多数の参加者を得て現地説明会を開催した。



1 廻り屋遺跡 2 黒船館遺跡 3 岡ノ台遺跡

遺跡位置図 (S=1:25,000)

国土地理院発行2万5000分の1「白旗」「長井」を使用

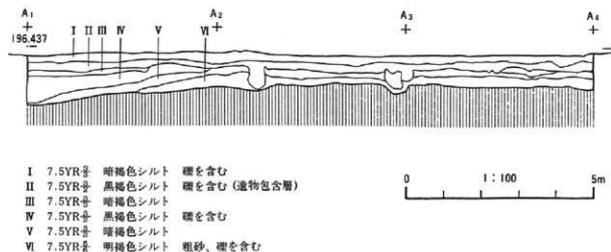
第1図 遺跡位置図

II 遺跡の立地と環境

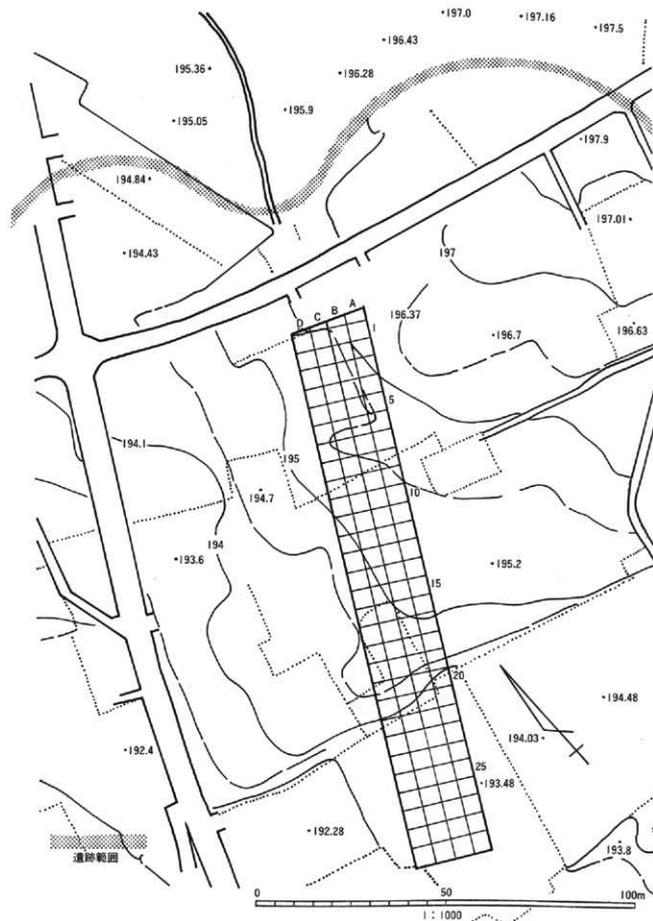
山形県西部の長井盆地の北に位置する白鷹町は、最上川の東西に広がる町で西方に朝日山系の山々が連なり、稜線と緑が豊かな景観の地域である。その白鷹町の中でも、廻り屋遺跡の立地する荒砥地区周辺は山形県内でも降雪量の多い置賜地方にあって、降雪量の少ないところとして知られている。また地理的には置賜地方の北端に位置することから、峠を介して村山盆地との接点ともなっている。

廻り屋遺跡の範囲はおおよそ東西200m・南北250mの約30,000㎡と考えられる。遺跡は最上川右岸の河岸段丘上に立地し、北を貝生川が流れ、南は段丘座になっている。遺跡の立地している高位の段丘のほとんどは畑や桑畑に利用されており、最上川に近い低位の段丘や沖積地の多くは水田に利用されている。遺跡の層序に河川の氾濫によると思われる砂礫の互層が認められ、調査区内で認められた砂礫は貝生川の氾濫によると思われる。標高は調査区の北側が約195.4mで、南側は約193.7mとなる。

白鷹町には多数の遺跡が分布しており、「山形県遺跡地図」(昭和53年度刊行 山形県教育委員会)には、これまで59か所の遺跡が登録されている。時期的には縄文時代の遺跡が多い。その中において、平成5年度に行われた「岡ノ台遺跡」と「黒藤館跡」の発掘調査は西置賜地方の古墳時代研究に新しい展開をもたらした。「岡ノ台遺跡」からは古墳時代前期の竪穴住居跡1軒が、「黒藤館跡」からは古墳時代前期の方形周溝墓が3基確認され、さらに今回の「廻り屋遺跡」の成果を考え合わせると、今まで古墳時代に関し空白といわれていた白鷹町にも早い時期から古墳文化が根付いていたことがうかがえる。次に層序について述べる。遺物包含層は基本的に表土(I層)直下の黒色シルト(II層)で、遺構はII層下の地積層を掘り込んでいる。II層より下の地積層は調査区の北側では砂礫層で、その下に黒色シルトの場合が多く、南では砂礫層が少なく黒色シルトが認められる箇所もある。



第2図 土層断面図



第3図 調査概要図

III 遺構と遺物

今回の調査では24軒の竪穴住居跡、2棟の掘立柱建物跡、河川跡1条、性格不明遺構2基、井戸跡1基の他多数の土坑・ピットが確認された。遺物は、整理箱にして47箱出土し、時間的な割合は古墳時代の遺物が約80%、平安時代の遺物が約20%である。

1 竪穴住居跡

ST1 (第5図) <長軸3.9m 短軸3.4m 主軸 N-75°-W>

ほとんど床面のみ確認で、壁は北半で僅かながら確認できた。平面形はほぼ方形であると考えられる。炉跡は確認できなかった。柱穴はEP1・3・7・2が考えられ、EP4も伴う可能性がある。出土遺物は古式土師器、須恵器、あかやき土器の破片が出土したが、一般に破片が多く遺存状態は良くなかった。住居の年代は、古式土師器は混入であると考え、須恵器とあかやき土器(21-13)が出土していることから平安時代と判断される。

ST2 (第5図) <長軸3.2m 短軸3.2m 主軸 N-7°-E>

一辺が3.2mのほぼ正方形の竪穴住居で、壁も明瞭に確認でき、南半部でカマドも確認できたが、良好な状態ではなかった。柱穴はEP1とEP2を確認することができたが、EP2はST3に付属すると思われる。覆土上面から多くの礫が出土し、礫に混じて多数の土器片も出土したことから、礫が混入したのは2号住居が埋没してからそんなに時間がたたないうちであると考えられる。遺物(第21図)は須恵器、あかやき土器、古式土師器が出土した。古式土師器は、21-1が床面から出土しているが、これは3号住居を切っているために3号住居の遺物が混入したとも考えられる。須恵器は回転ヘラ切りの台付壺(11)と高台付環(12)、大甕の底部(15)が出土した。あかやき土器では鍋(16)と長胴の甕(17)も出土した。時期は平安時代と考えられる。

ST3 (第5図) <長軸4.2m 短軸4.0m 主軸 N-2°5'-W>

一辺が約4mのほぼ正方形の竪穴住居で、壁も明瞭に確認できた。床面中央部からやや北よりのところで地床炉が確認された。柱穴は中央よりのEP1から4、それに四隅部分のEP5からEP7と、ST2内のEP2がともなう。四隅部分のEP5から7と、ST2のEP2の掘り方は住居中央に向けて内傾していた。遺物(第21図、第27-14)は複合口縁の壺(4)、単孔の甕(3)、甕の口縁(2、27-14)が出土した。時期は古墳時代前期と考えられる。

ST4 (第6図) <長軸3.0m 短軸不明 南北軸 N-35°-E>

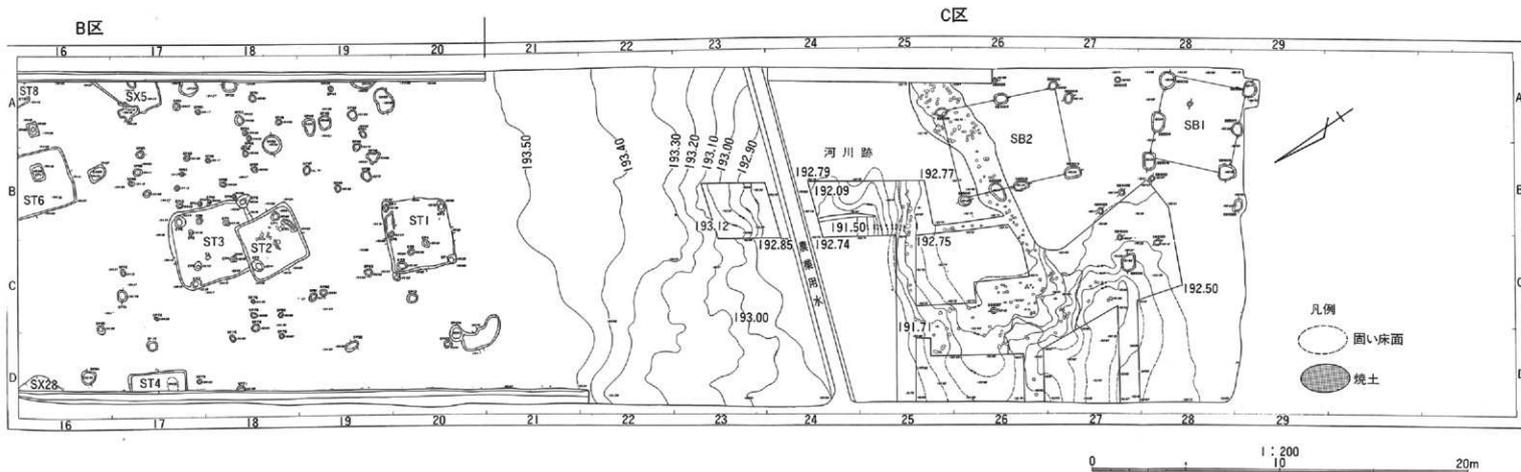
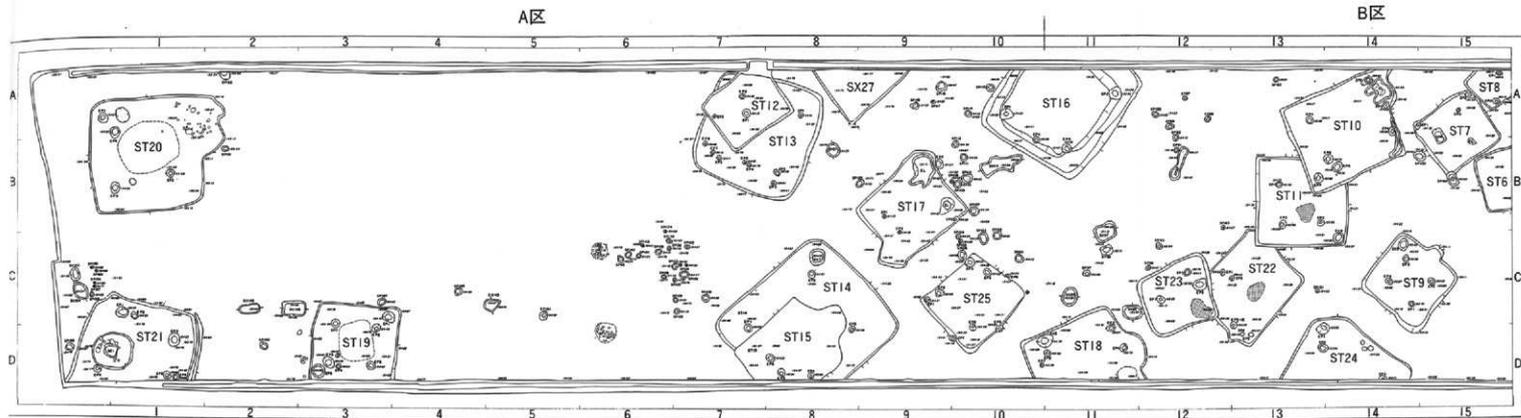
炉と思われる焼土をともなっていた。遺物の出土は無く、時期は不明である。

ST6 (第6図) <長軸4.6m 短軸3.2m 主軸 N-19°5'-E>

長方形の住居跡で、壁は僅かに残る程度である。柱穴は認められなかったが、EP1がともなっている。遺物は縄文土器片(21-8)が出土した。この住居の時期は不明である。

ST7 (第7図) <長軸3.7m 短軸3.4m 主軸 N-4°-W>

ほぼ正方形の竪穴住居で、床面はしっかりと残っていた。中央部から南西よりのところ



第4図 遺構配置図

に炉が認められた。柱穴はEP1～4が確認された。ただし、EP4は7号住居とは別の独立した遺構の可能性もある。ST8とSP164に切られている。遺物(第21図)は、覆土から5と6が出土した。5は底部で、内面の刷毛目調整の様子が良く分かる。6と7は複合口縁の甕で、6は口縁内側と口頸部に刷毛目の木口による刺突が認められる。7は外面と内面の一部に赤彩が施されている。この住居は古墳時代前期の住居と考えられる。

ST8(第7図) <長軸2.1m 主軸ほぼ磁北>

不整形な形であるが、柱穴と考えられるEP1とEP2を確認したので竪穴住居と判断した。出土遺物はなかった。時期は不明だが、切り合い関係からST7よりは新しい。

ST9(第7図) <長軸4.3m 短軸4.0m 主軸 N-14°-W>

方形の竪穴住居で、南辺に張り出し部を持つ。中央から西よりのところで炉が認められた。柱穴はEP1～4まで確認でき、南東部の隅に土坑が確認された。遺物(第22図、11図)の出土状況は覆土の上面から多く出土し、床面出土の遺物は少なかった。器種は高坏(3、4、8)、器台(7)、壺(10、11、12、13、14)、甕(15、17、18、19、20)、台付甕(5)、鉢(1、2)などがある。時期は古墳時代前期と考えられる。

ST10(第8図) <長軸6.0m 短軸5.0m 主軸 N-10°-E>

ほぼ正方形で、南隅に竪を持つ。柱穴はEP1・6・5・4で、EP2・3は竈脇の貯蔵穴と考えられる。EP7はST11に伴う柱穴と考えられる。遺物(第22図)は須恵器蓋(21)、高台付坏(22)、回転糸切りの土師器(23)が出土している。その他器台(9)が出土しているが、これは後からの混入と考えられる。時期は平安時代と考えられる。

ST11(第8図) <長軸・短軸4.8m 主軸 N-33°5'-E>

正方形で、中央よりにEP1～3の柱穴が確認された。ST10に切られている。ST10内のEP7は本来ST11に伴うものであったと考えられる。西隅で確認されたEK4は貯蔵穴と考えられ、EP2とEP3を結ぶ中間で炉と思われる焼土が確認された。遺物(22図)の出土はそう多くはなかったが、器台(24)、頸部に隆帯を持つ甕(25)、台付甕(26)が出土した。これらの遺物から住居の時期は古墳時代前期と考えられる。

ST12(第9図) <長軸4.0m 短軸3.2m 主軸(長軸)ほぼ磁北>

正方形で、ST13を切っている。柱穴はEP1～3が確認されたが、EP2・3はST13に伴う可能性が高い。床面は固くなかった。遺物(第25図)は古墳時代の器台(11)、高坏(12)が出土したが、これらは混入かST13に伴う遺物と考えられる。11は首飾りなどの装飾品の可能性もある。ST12の年代を決定するのは13の黒色土器(高台付坏)、14の土師器(甕)と考えられ、平安時代と考えられる。

ST13(第9図) <長軸・短軸6.2m 主軸 N-36°-W>

隅丸方形の竪穴住居で、ST12に切られている。柱穴はEP1～8が確認された。ST12内のEP2・3はST13に伴う可能性がある。遺物(第26図)は土師器の甕(1、3、4)、高坏(2)が出土した。時期は古墳時代前期と考えられる。

ST14(第10図) <長軸7.6m 短軸7m 主軸 N-5°-E>

隅丸方形の竪穴住居で、ST15によって切られている。炭化材が出土したことから焼失家屋と考えられる。柱穴はEP1～6まで確認できた。EK7は貯蔵穴と考えられる。遺物(第11図、17図～20図)は床面付近からまとまりのある資料が出土した。特に、S字口縁を持つ土器群(1～4、20、41)と、口縁内側に刷毛目の木口による刺突を持つ土器(35。ST7でも出土)、頸部に隆帯を持つ土器(32。ST9・11でも出土)が目目される。また、39と40は口唇部が立ち上がり北陸地方の影響を受けた土器と考えられる。石製品として砥石が2点出土した(42・43)。時期は古墳時代前期と考えられる。

ST15(第10図)＜長軸6m 短軸4.4m 主軸 N-6°5' E＞

ほとんど床面のみを確認で壁、柱穴などは確認できなかった。出土遺物(第21図)は縄文土器(10)、須恵器の蓋(18)、木炭痕のある黒色土器(19)、土師器の甕(20)が出土した。時期は平安時代と考えられる。

ST16(第9図)＜長軸7.0m 短軸6.4m 主軸 N-36° W＞

壁際に全面周溝を持つ住居で、周溝内側の隅に柱穴を持つ。柱穴はEP1～4まで確認できた。炉や竈は認められない。遺物は古式土師器、須恵器、砥石(第25図-16)が出土したが、須恵器の坏(第23図-1、2)が床面から出土したことから、時期は平安時代と考えられる。

ST17(第12図)＜長軸4.6m 短軸4.2m 主軸 N-9°5' W＞

方形の竪穴住居で、柱穴はEP1～3まで確認できた。竈は南半部に2基確認できた。この住居に伴うと思われる土坑が南西の隅で確認できた(EK4)。遺物(第23図)は須恵器(3～5、10)、あかやき土器(6、7、13)、土師器(9、14、15)、黒色土器(8)が出土した。6・7は、EL2から重なった状態で出土した。14と15は混入と考えられる。時期は平安時代と考えられる。

ST18(第12図)＜南北5.0m 南北軸 N-12°5' E＞

住居の西側は調査区外で全形を確認できなかったが、ほぼ正方形と考えられる。柱穴はEP1～4まで確認でき、北東部では土坑(EK5)が確認できた。南辺が張り出しているが、これは掘りすぎによるものである。南西部で焼土が確認できたが、壁に備っているため炉であるかどうかは不明である。遺物(第23図)は器台がまとまって出土した(17～21)。また甕では、平底で直線的に立ち上がる(16、23)ものがある。22の底部には稜の丘状がある。24は薄手で、口径と胴径に差が無く、長胴で内外面にハケメを施し、奈良から平安時代の土師器に類似している。時期は古墳時代前期と考えられる。

ST19(第12図)＜長軸4.2m 短軸4.4m 主軸 N-37° E＞

ほぼ方形で、床面は囲い部分が明瞭に確認でき、柱穴はEP2・3・4・7と考えられ、EP1・5・6は貯蔵穴か土坑と考えられる。遺物は壺(第24図-1)が出土した。時期は古墳時代前期と考えられる。

ST20(第13図)＜長軸7.2m 短軸6.2m 主軸 N-35° E＞

住居南半部のプランは良くつかめなかったが、中央部付近で囲い床面が確認できた。柱

穴はEP2・3・4と考えられ、南東部分の上面で礫が検出された。遺物(第24図)は壺や器台、高坏などが出土し、古墳時代前期と考えられる。

ST21(第13図)＜長軸(5.4m) 短軸6.1m 主軸 N-40° W＞

隅丸方形と考えられ、EP1～6が確認された。近世と考えられる井戸(SE1)が切っている。遺物(第24図)は大型の器台と器台が出土し、時期は古墳時代前期と考えられる。

ST22(第13図)＜長軸5.0m 短軸4.2m 主軸 N-7° E＞

ほぼ方形で、ST11と23によって切られている。柱穴はEP1～5があり、中央付近で炉が確認された。出土遺物(第25図1～3)からみて時期は古墳時代前期と考えられる。

ST23(第14図)＜長軸4.0m 短軸3.4m 主軸 N-43° E＞

やや不整な方形を呈し、EP1・2は柱穴、EK3は土坑と考えられる。南西端で焼土が確認され、焼土上面から25・6・27・22が出土した。出土遺物(第25図)は須恵器(6～9)とあかやき土器(10)などが出土し、時期は平安時代と考えられる。

ST24(第14図)＜長軸(6.0m) 短軸(4.4m) 主軸 N-20° E＞

隅丸方形に近いプランで、柱穴はEP1～3まで確認できた。遺物(第25図)は土師器壺(4)、埴(5)と砥石(15)があり、時期は古墳時代前期と考えられる。

ST25(第14図)＜長軸・短軸4.0m 主軸 N-6° E＞

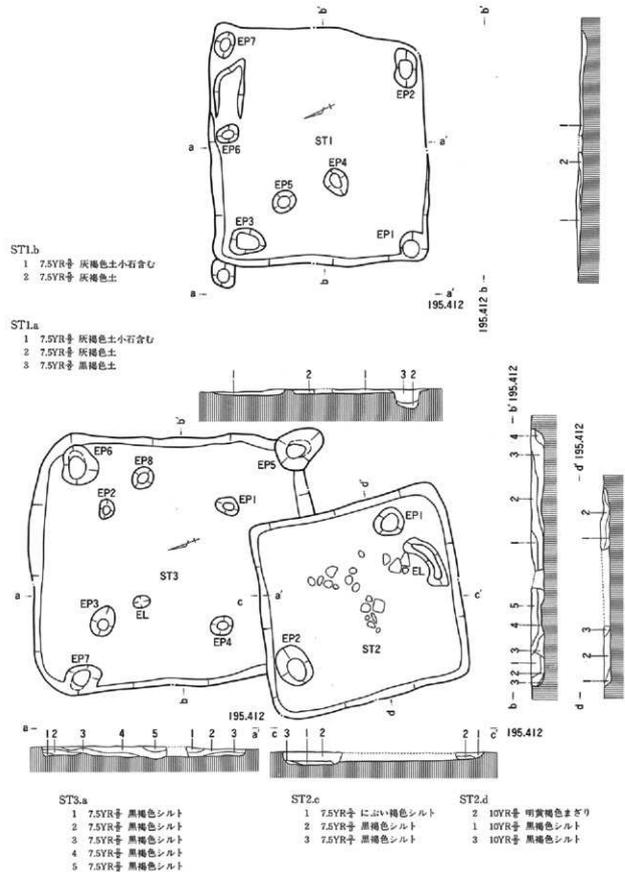
壁は北半部で確認することができ不整の方形を呈する。柱穴はEP1～7まで確認できた。遺物の出土はなく、時期は不明である。

2 その他の遺構

独立柱建物跡(第15・16図)としてSB1とSB2がある。SB1は1間×2間の建物跡で、柱穴からの遺物出土はなかった。SB2も1間×2間の建物跡で柱穴からの遺物出土はなかった。SB2に隣接するSP5004からは古式土師器が出土した(27-3)。河川跡(第15図)は調査区を横断するように東から西へ流れている。幅は約7～8m程あり、深さは最深部で1.2m程ある。底面からは土師器台付壺(27-11)が出土しており、上面からはあかやき土器坏(27-1)が出土していることから、河川跡は古墳時代には機能しており、平安時代頃には機能しなくなったことがうかがえる。竪穴状遺構でプランが明瞭に確認できたものを性格不明遺構として扱い、SX5(第6図)とSX27(第14図)がある。

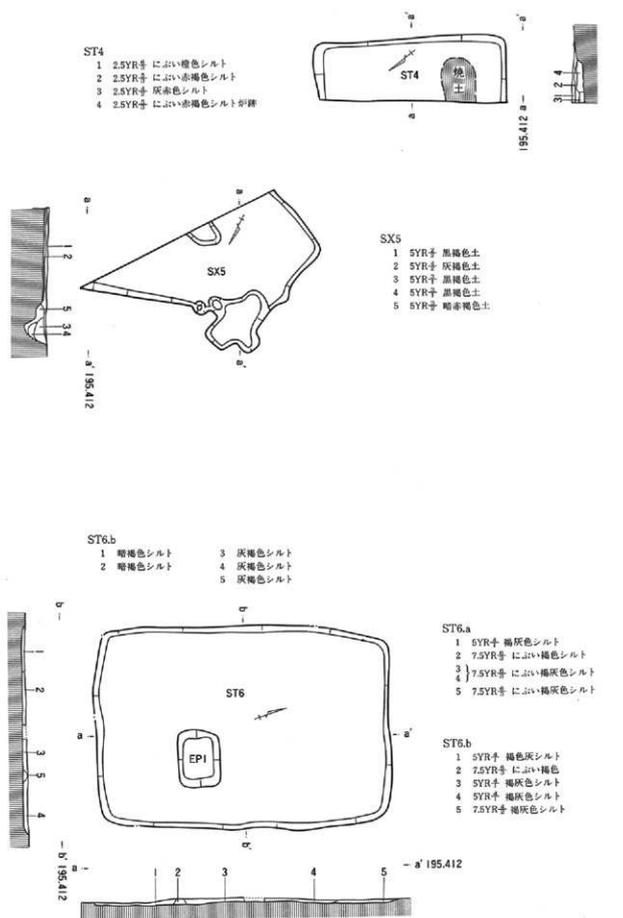
3 遺構出土以外の遺物(第26図)

遺構以外にも注目すべき遺物が出土している。26-5はS字口縁を持つ土師器坏で丁寧に磨かれている。26-6の坏も丁寧に磨かれており赤彩が施されている。26-14は棒状浮文を持つ土師器壺である。26-9も棒状浮文の痕跡が認められる。縄文時代の遺物は出土したが遺構は確認できなかった。



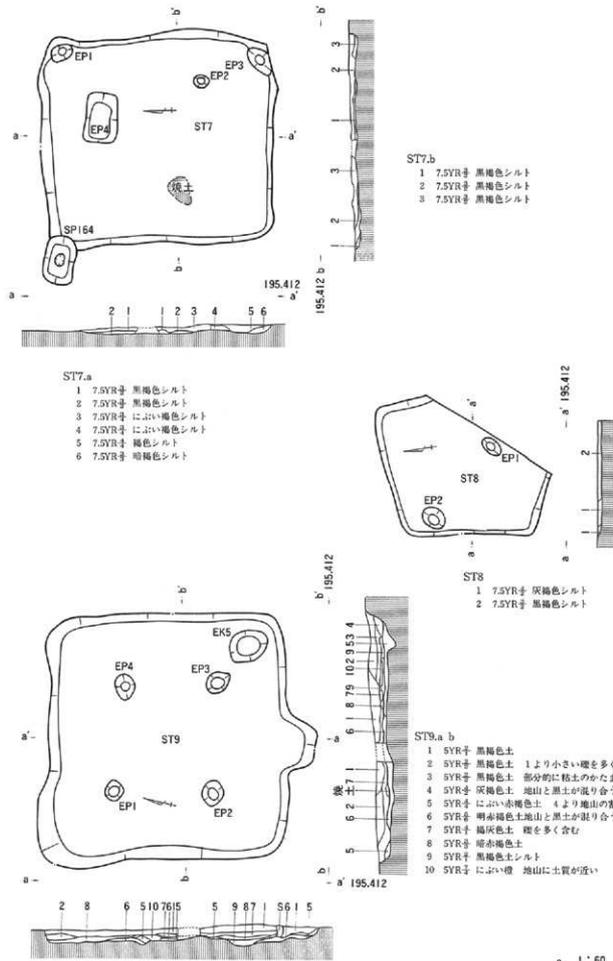
0 1:60 1m

第5図 遺構実測図(1) ST1・2・3住居跡



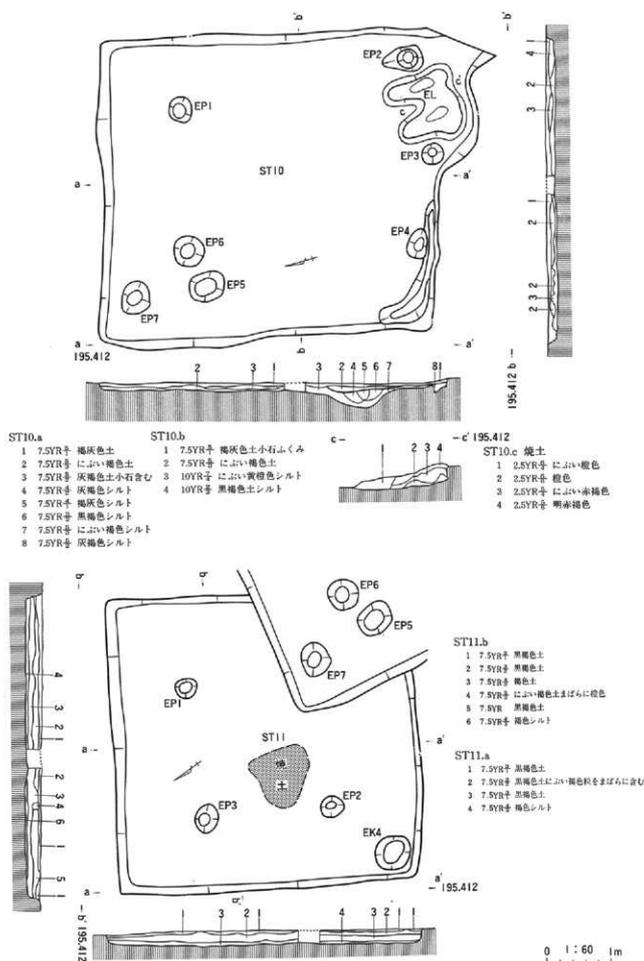
第6図 遺構実測図(2) ST4・5 SX5住居跡

III 遺構と遺物

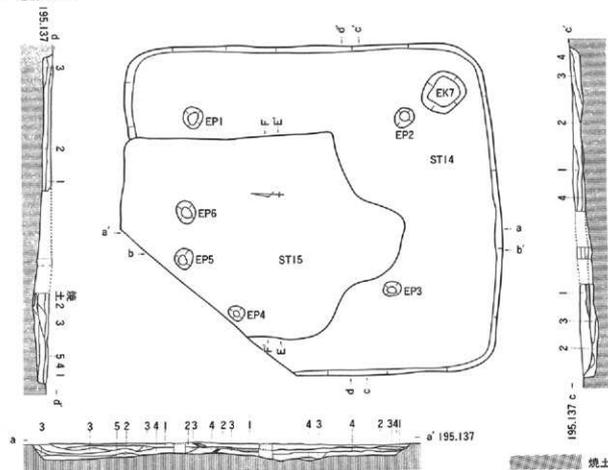


第7図 遺構実測図(3) ST7-8-9住居跡

III 遺構と遺物



第8図 遺構実測図(4) ST10-II住居跡



ST14 15 E

- 1 7.5YR# 灰褐色粘質土
- 2 7.5YR# 赤褐色シルト
- 3 7.5YR# 暗褐色シルト
- 4 7.5YR# 赤褐色シルト 砂含む

ST14 15 F

- 1 7.5YR# 灰褐色土小石含む
- 2 7.5YR# 黒褐色シルト
- 3 7.5YR# 黒褐色粘質土
- 4 7.5YR# 褐色シルト
- 5 7.5YR# 褐色土砂含む

ST14 15 a.

- 1 7.5YR# 灰褐色シルト
- 2 7.5YR# 灰褐色粘質土とところどころ黒土を含む
- 3 7.5YR# 灰褐色シルト
- 4 7.5YR# 黒褐色シルト
- 5 7.5YR# 赤褐色土 砂含む

ST14 15 b.

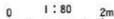
- 1 7.5YR# 灰褐色シルト 礫含む
- 2 7.5YR# 褐色砂質シルト
- 3 7.5YR# 黒褐色シルト
- 4 7.5YR# 黒褐色シルト 小石少々含む
- 5 7.5YR# 褐色シルト 褐色土をふくむ

ST14 15 c.

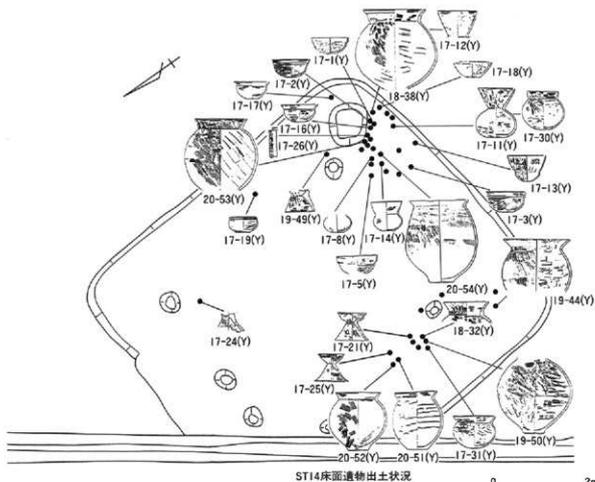
- 1 7.5YR# 灰褐色シルト小石含む
- 2 7.5YR# 灰褐色シルト小石含む
- 3 7.5YR# 黒褐色シルト褐色粘質土
- 4 7.5YR# 灰褐色シルト

ST14 15 d.

- 1 7.5YR# 灰褐色土小石含む
- 2 7.5YR# 灰褐色シルト
- 3 7.5YR# 赤褐色シルト
- 4 7.5YR# 褐色シルト 砂含む
- 5 7.5YR# 赤褐色シルト



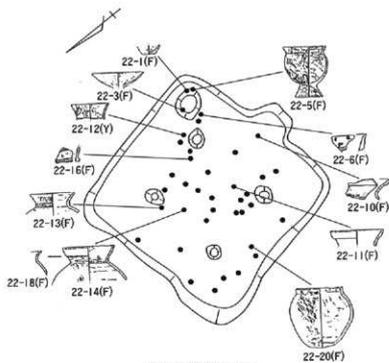
第9図 遺構実測図(6) ST14-15住居跡



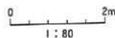
ST14床面遺物出土状況



図中の番号は押図番号・遺物番号を組合せたものである。
例 17-19は第17図の19番の遺物である。
(Y) 床面
(F) 覆土



ST9覆土遺物出土状況



第10図 遺構実測図(7) ST9-10遺物出土状況

ST12.D

- 1 7.5YR₅ 黒褐色シルト
- 2 7.5YR₅ 黒褐色シルト
- 3 7.5YR₅ 黒褐色シルト
- 4 7.5YR₅ に焼土・赤土を含む

ST12.C

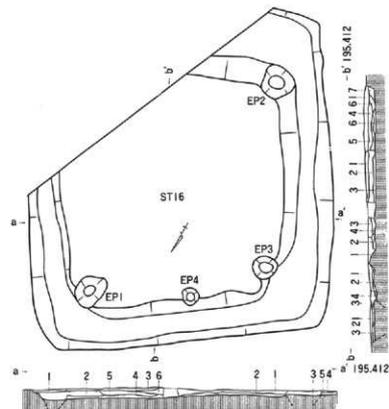
- 1 7.5YR₅ 黒褐色シルト
- 2 7.5YR₅ 黒褐色シルト 小石含む少量
- 3 7.5YR₅ 黒褐色シルトとこげごみ混在層A
- 4 7.5YR₅ 黒褐色砂質土

ST13.a

- 1 7.5YR₅ 暗褐色シルト 小粒小石含む
- 2 7.5YR₅ に多い褐色土
- 3 7.5YR₅ 暗褐色シルト
- 4 7.5YR₅ 褐色土
- 5 7.5YR₅ 褐色土
- 6 7.5YR₅ 暗褐色土
- 7 7.5YR₅ 暗褐色土
- 8 7.5YR₅ 暗褐色土
- 9 7.5YR₅ 暗褐色砂質土

ST13.b

- 1 7.5YR₅ 暗褐色土小粒小石含む
- 2 7.5YR₅ に多い褐色土
- 3 7.5YR₅ 暗褐色土小石少々含む
- 4 7.5YR₅ 暗褐色土砂含む
- 5 7.5YR₅ 暗褐色シルト



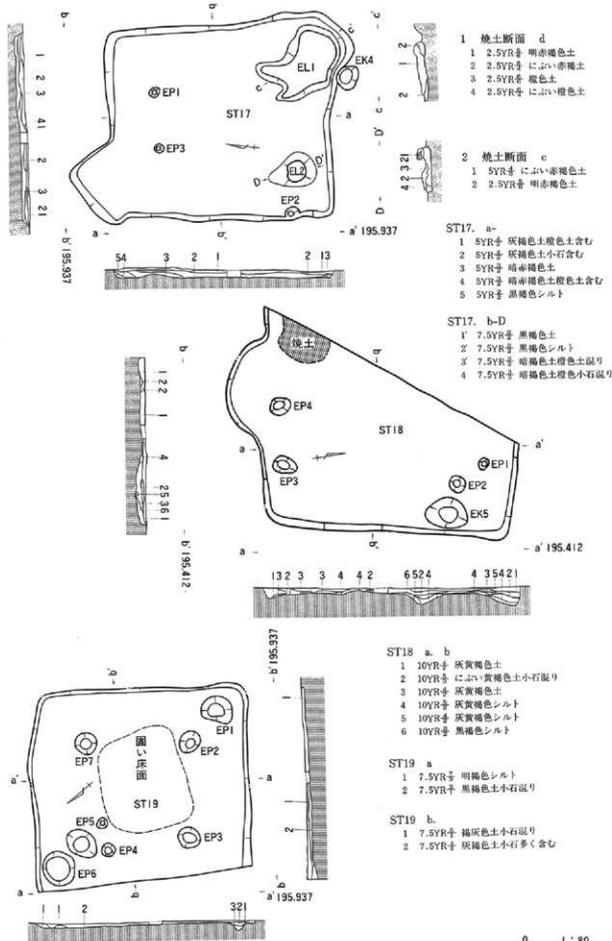
ST16.b

- 1 7.5YR₅ 暗褐色砂質土
- 2 7.5YR₅ 暗褐色シルト
- 3 7.5YR₅ に多い褐色土
- 4 7.5YR₅ に多い褐色土
- 5 7.5YR₅ に多い褐色土砂含む
- 6 7.5YR₅ 褐色土

ST16.a

- 1 7.5YR₅ 暗褐色土
- 2 7.5YR₅ に多い褐色土小石
- 3 7.5YR₅ 暗褐色土
- 4 7.5YR₅ に多い褐色土
- 5 7.5YR₅ 暗褐色砂質土
- 6 7.5YR₅ 褐色土小石含む

第11図 遺構実測図(5) ST12-13-16住居跡



1 焼土断面 d

- 1 2.5YR₅ 明赤褐色土
- 2 2.5YR₅ に多い赤褐色土
- 3 2.5YR₅ 褐色土
- 4 2.5YR₅ に多い褐色土

2 焼土断面 c

- 1 5YR₅ に多い赤褐色土
- 2 2.5YR₅ 明赤褐色土

ST17. a-

- 1 5YR₅ 灰褐色土褐色土砂含む
- 2 5YR₅ 灰褐色土小石含む
- 3 5YR₅ 暗赤褐色土
- 4 5YR₅ 暗赤褐色土褐色土砂含む
- 5 5YR₅ 暗褐色シルト

ST17. b-D

- 1 7.5YR₅ 暗褐色土
- 2 7.5YR₅ 暗褐色シルト
- 3 7.5YR₅ 暗褐色土褐色土混り
- 4 7.5YR₅ 暗褐色土褐色土小石混り

ST18 a, b

- 1 10YR₅ 灰黄褐色土
- 2 10YR₅ に多い黄褐色土小石混り
- 3 10YR₅ 灰黄褐色土
- 4 10YR₅ 灰黄褐色シルト
- 5 10YR₅ 灰黄褐色シルト
- 6 10YR₅ 暗褐色シルト

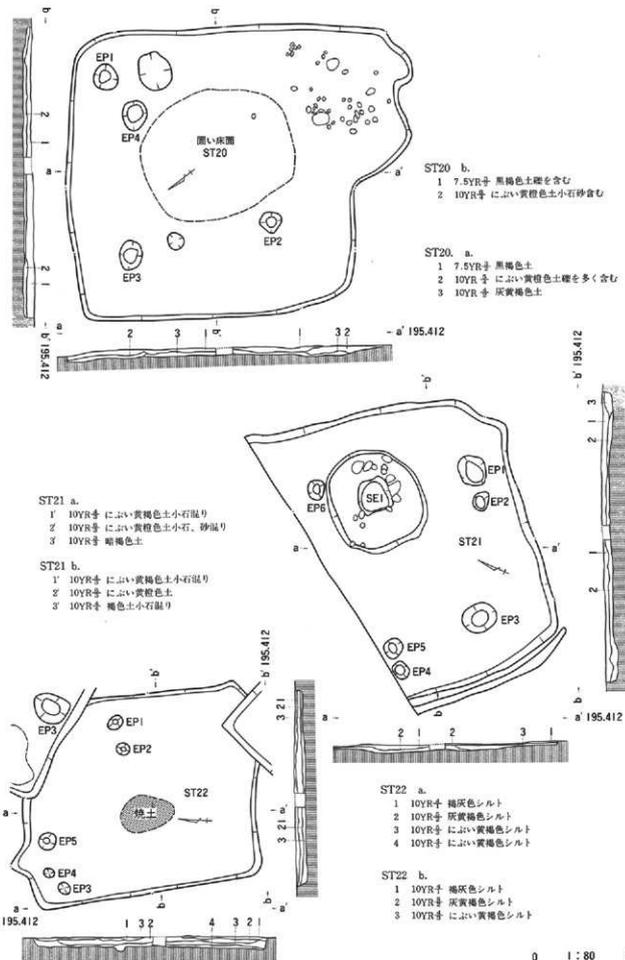
ST19 a

- 1 7.5YR₅ 暗褐色シルト
- 2 7.5YR₅ 暗褐色土小石混り

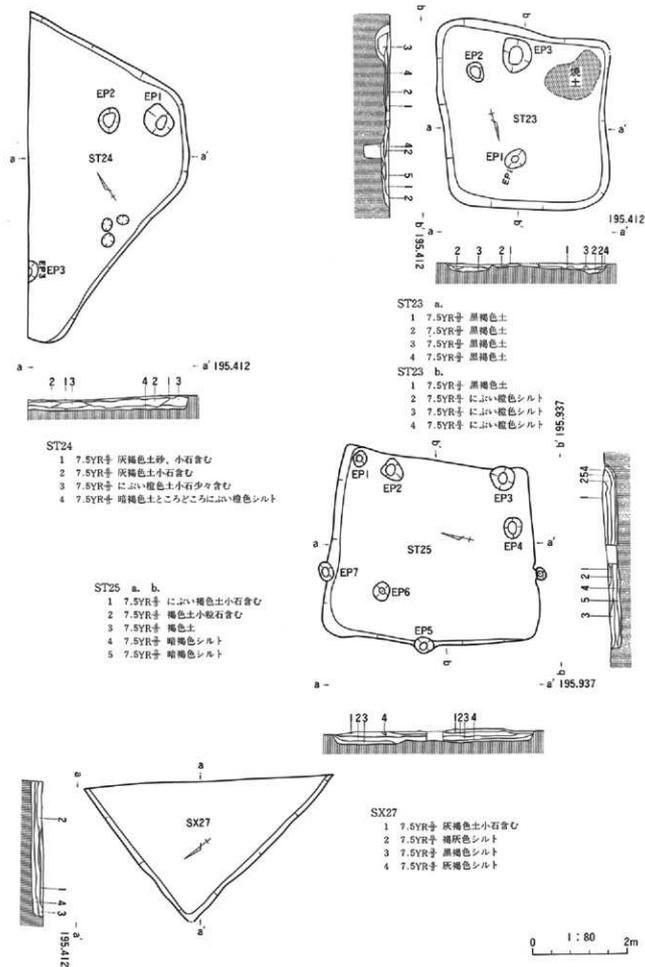
ST19 b.

- 1 7.5YR₅ 暗褐色土小石混り
- 2 7.5YR₅ 灰褐色土小石多量含む

第12図 遺構実測図(8) ST17-18-19住居跡

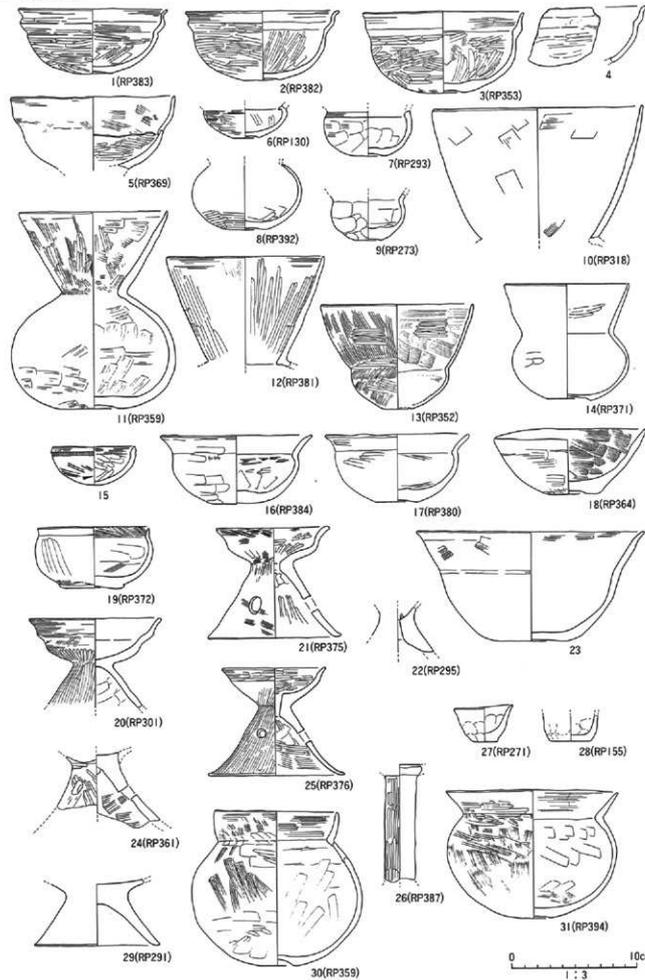


第13図 遺構実測図(9) ST20-21-22住居跡



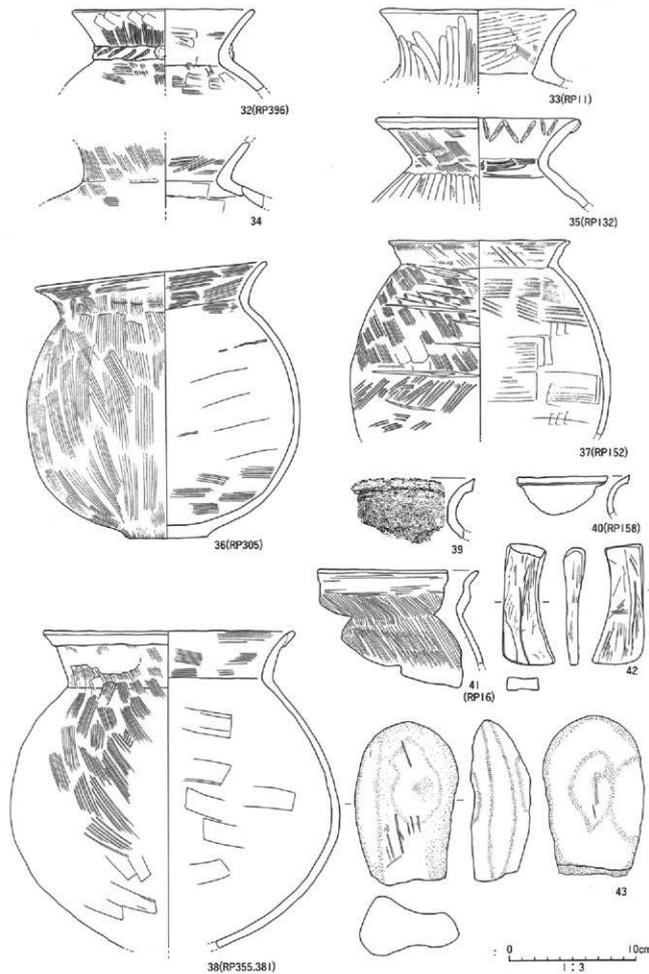
第14図 遺構実測図(10) ST23-24-25 SX27住居跡

III 遺構と遺物

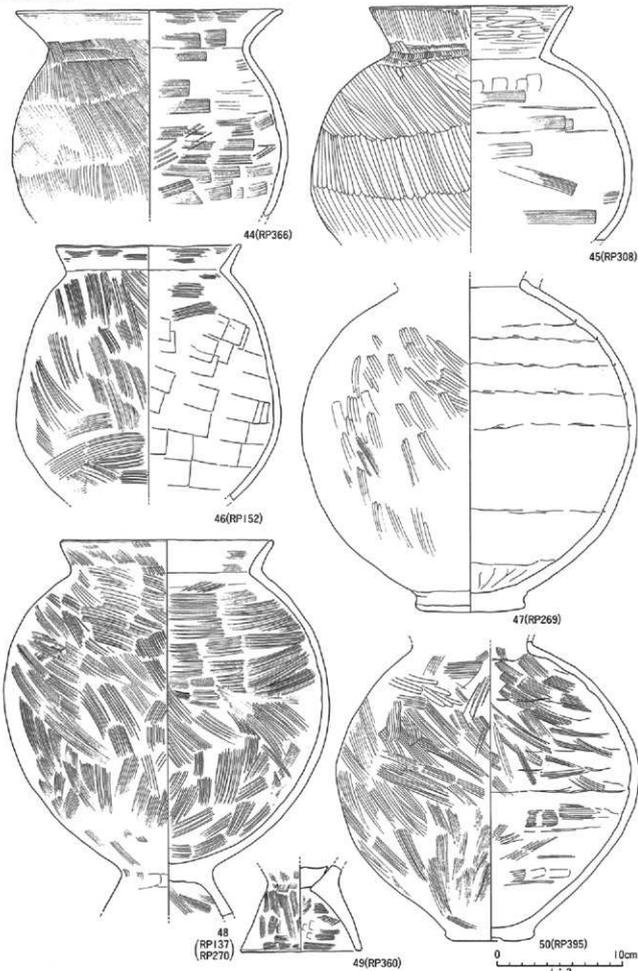


第17図 ST14・15遺物実測図

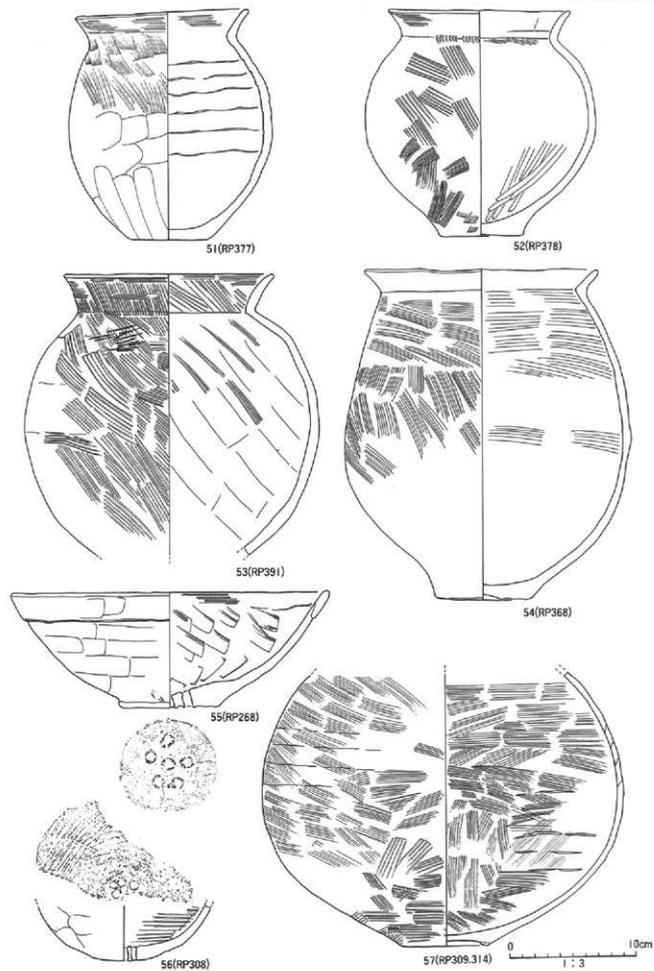
III 遺構と遺物



第18図 ST14・15遺物実測図

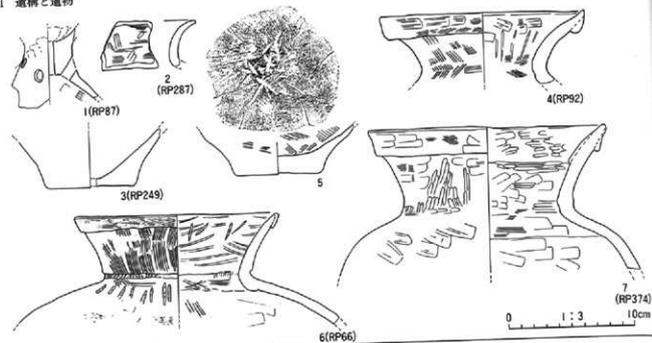


第19図 ST14・15遺物実測図

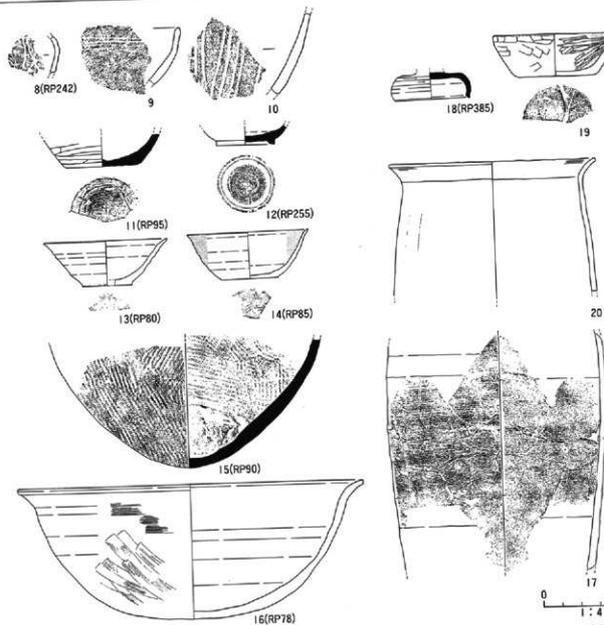


第20図 ST14・15遺物実測図

III 遺構と遺物



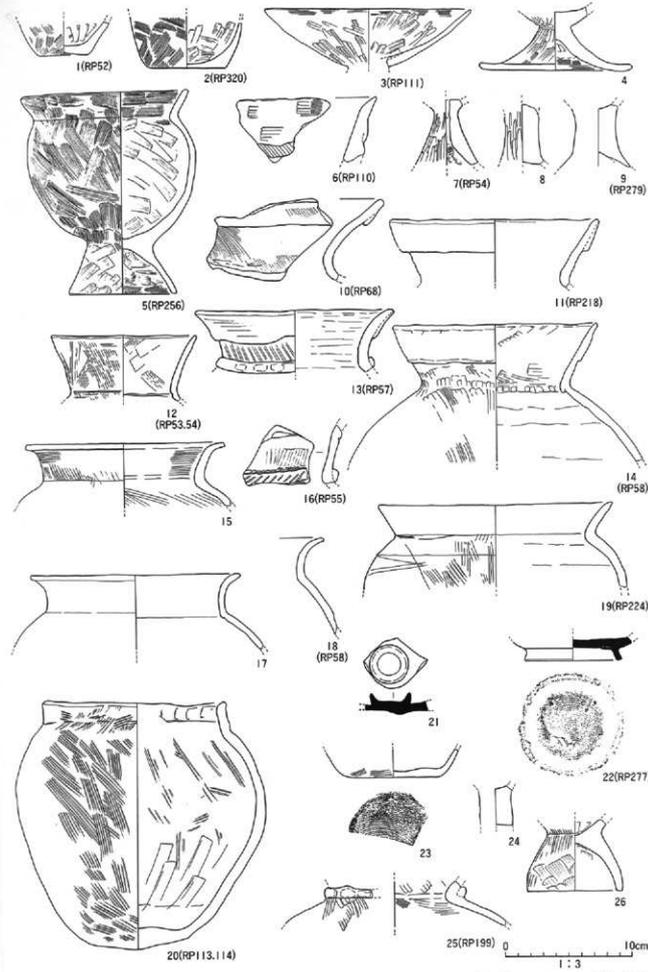
0 1:3 10cm



0 1:4 10cm

第21図 ST1-2-3-6-7-15遺物実測図

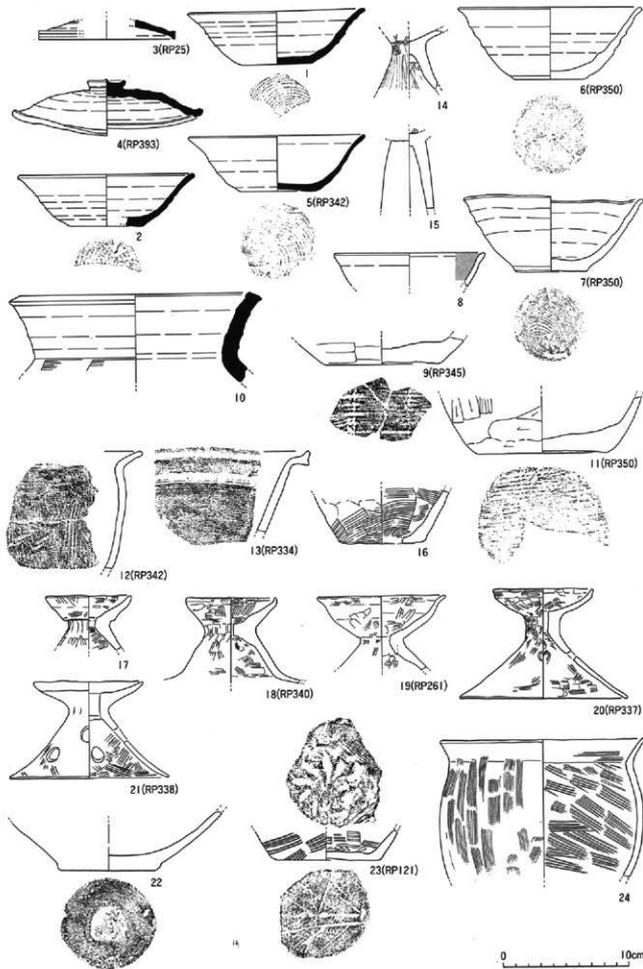
III 遺構と遺物



0 1:3 10cm

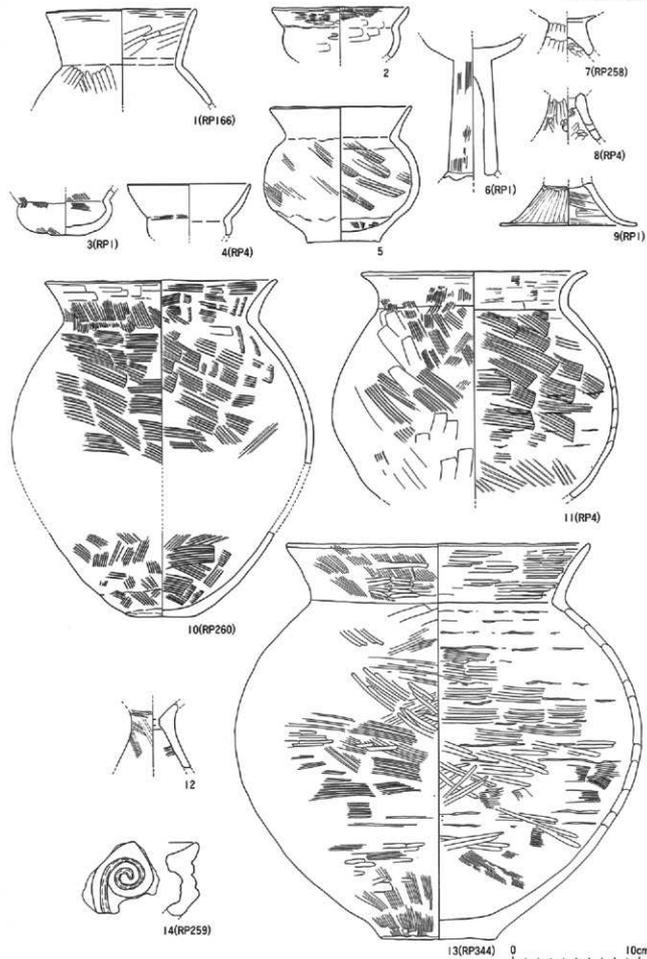
第22図 ST9-10-11遺物実測図

III 遺構と遺物



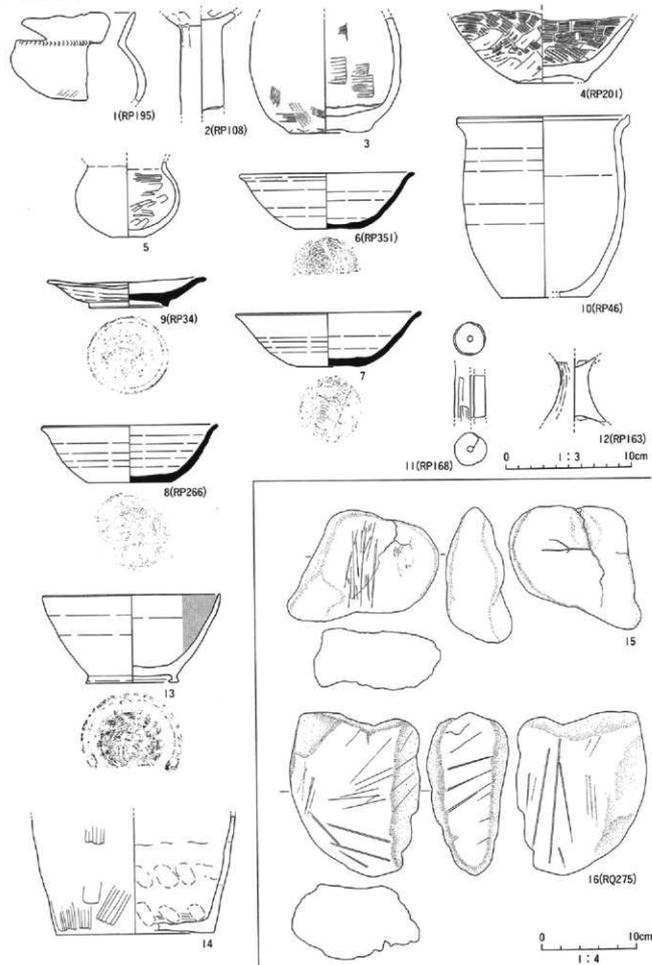
第23図 ST16-17-18遺物実測図

III 遺構と遺物



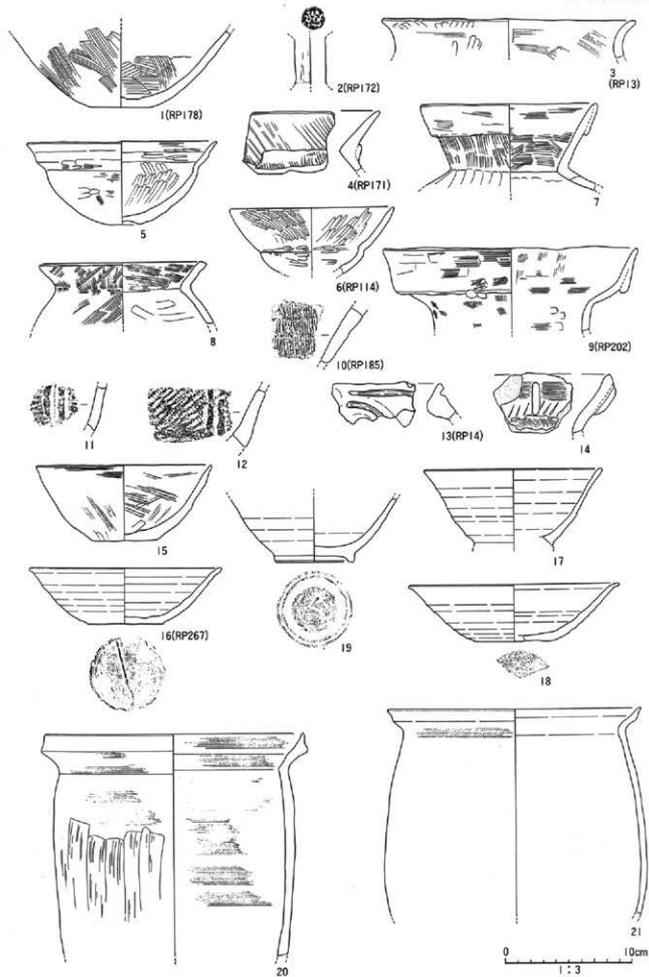
第24図 ST19-20-21遺物実測図

III 遺構と遺物

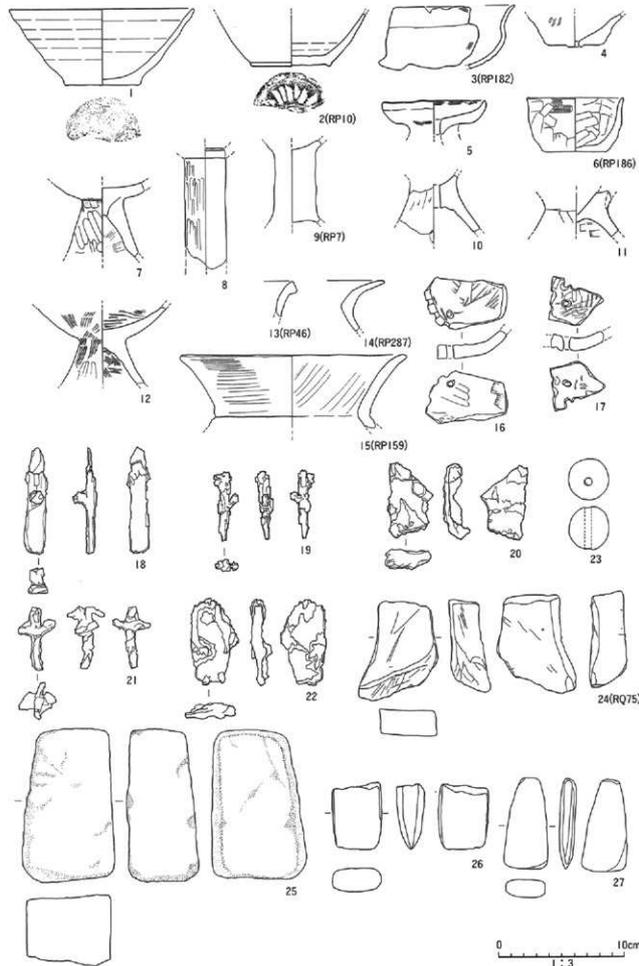


第25図 ST12-16-22-23-24遺物実測図

III 遺構と遺物



第26図 ST13グリット遺物実測図



第27図 ST23・SB5004グリット遺物実測図

表(1) 廻り屋遺跡遺物観察表(1)

層別	遺物種別	種別・器種	計測値(cm)				底層切層 (特記)	調整技法		出土地点 採集番号	備考	
			口径	底径	器高	壁厚		内面	外面			
第1層	土器	環	118	26	52	3		ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	ST14(RP29)	内外面赤彩	
			122	28	55	3		ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	ST14(RP28)	内外面赤彩	
			(128)	30	64	4		ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	ST14(RP25)	S字口縁	
						3		ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	ST14F	S字口縁	
			(130)		(58)	3		ナデ・ハケメ・ミガキ	ハケメ	ST14Y(RP24)		
			(20)	(26)		3		ミガキ	ミガキ	ST14Y(RP20)		
			(70)	25	(35)	4		ナデ	ナデ・ケズリ	ST14(RP23)		
				28	(50)	3		ナデ	ナデ・ミガキ	ST14Y		
				20	(36)	4		ナデ	ナデ・ケズリ	ST14(RP21)		
			(146)		(104)	4		ケズリ	ケズリ	ST14(RP22)		
			(118)	40	155	5		ハケメ	ミガキ	ST14Y(RP26)		
第2層	土器	環	(126)			5		ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	ST14Y(RP20)		
			(120)	(20)	(85)	2		ハケメ・ミガキ	ハケメ・ミガキ	ST14Y(RP25)		
			96	33	92	3	裾部割落	ミガキ	ミガキ	ST14Y(RP21)		
			(64)	(28)	30	5		ハケメ・ミガキ	ナデ・ハケメ・ミガキ	ST14F	ミニチュア土器	
			120	30	54	5				ST14Y(RP24)	2次焼成を受けている	
			(114)	32	54	4		ナデ	ミガキ	ST14Y(RP28)	2次焼成を受けている	
			(120)	40	52	5		ハケメ	ハケメ	ST14Y(RP24)		
			88	50	48	4		ナデ・ハケメ	ナデ	ST14Y(RP21)		
			(104)		70	5		ナデ	ミガキ	ST14Y(RP20)		
			90	107	88	6		ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	ST14Y(RP25)	脚部に3孔有	
										ST14Y(RP25)		
第3層	土器	環	(180)	(56)	87	5		ハケメ	ハケメ	ST14F		
					66	7		ハケメ	ミガキ	ST14Y(RP26)	脚部に3孔有	
			(82)	(108)	86	4		ミガキ	ミガキ	ST14Y(RP26)	脚部に3孔有	
						93			ハケメ		ST14Y(RP27)	
			(43)	20	22	5		ナデ	ナデ	ST14(RP21)	ミニチュア土器	
				32	20	5		指ナデ	指ナデ	ST14F(RP25)	ミニチュア手づね成形	
				100		6				ST14(RP29)		
			(98)	25	123	4		ナデ	ナデ・ハケメ・ミガキ	ST14Y(RP28)		
			136	27	100	4		ナデ	ハケメ・ケズリ・ミガキ	ST14Y(RP20)	内外面赤彩	
			(140)						ハケメ・ケズリ	ST14Y(RP26)		
			(140)			5		ナデ・ミガキ	ミガキ	ST14(RP11)		
第4層	土器	環	(135)		45	7		ナデ・ハケメ・ミガキ	ハケメ	ST14F1		
			(160)		65	8		ハケメ	ハケメ・ミガキ	ST14Y(RP23)		
			(185)	65	218	7		ケズリ	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	ST14Y(RP25)	
			(144)			5		ナデ・ハケメ	ハケメ	ST14Y(RP25)	胴部を砥石として使用	
			(200)			6		ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	ST14(RP25)		
						7				ST14Y		
						4				ST14F(RP13)		

表一(1) 廻り屋遺跡遺物観察表(1)

測点 番号	種別・器種	計測値(mm)				底部切端 (特記)	調整技法		出土地点 登録番号	備考	
		口徑	底徑	器高	器厚		内面	外面			
1	土師器	坏	118	26	52	3		ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	ST14(RP281)	内外面赤彩
2			122	28	55	3		ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	ST14(RP282)	内外面赤彩
3			(128)	30	64	4		ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	ST14(RP283)	S字口縁
4					3		ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	ST14F	S字口縁	
5		(120)		(58)	5		ナデ・ハケメ・ミガキ	ハケメ	ST14Y(RP286)		
6		(20)	(26)		3		ミガキ	ミガキ	ST14Y(RP130)		
7		(70)	25	(35)	4		ナデ	ナデ・ケズリ	ST14Y(RP293)		
8			28	(50)	3		ナデ	ナデ・ミガキ	ST14Y		
9			20	(36)	4		ナデ	ナデ・ケズリ	ST14Y(RP273)		
10		埴	(166)		(104)	4		ケズリ	ケズリ	ST14Y(RP116)	
11			(118)	40	155	5		ハケメ	ミガキ	ST14Y(RP289)	
12			(126)			5		ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	ST14Y(RP281)	
13			(120)	(20)	(85)	2		ハケメ・ミガキ	ハケメ・ミガキ	ST14Y(RP262)	
14			98	33	92	3	底部剥落	ミガキ	ミガキ	ST14Y(RP271)	
15		坏	(64)	(28)	30	5		ハケメ・ミガキ	ナデ・ハケメ・ミガキ	ST14F	ミニチュア土器
17	120		30	54	5				ST14Y(RP280)	2次焼成を受けている	
17	(114)		32	54	4		ナデ	ミガキ	ST14Y(RP288)	2次焼成を受けている	
18	鉢		(120)	40	52	5		ハケメ	ハケメ	ST14Y(RP264)	
19	坏	88	50	48	4		ナデ・ハケメ	ナデ	ST14Y(RP272)		
20		(104)		70	5		ナデ	ミガキ	ST14Y(RP291)		
21	厨台	90	107	88	6		ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	ST14Y(RP275)	脚部に3孔有	
22									ST14Y(RP266)		
23	坏	(180)	(56)	87	5		ハケメ	ハケメ	ST14F		
24				66	7		ハケメ	ミガキ	ST14Y(RP261)	脚部に3孔有	
25	厨台	(82)	(108)	86	4		ミガキ	ミガキ	ST14Y(RP290)	脚部に3孔有	
26	高坏				93			ハケメ	ST14Y(RP287)		
27	鉢	(43)	20	22	5		ナデ	ナデ	ST14Y(RP271)	ミニチュア土器	
28			32	20	5		指ナデ	指ナデ	ST14F(RP153)	ミニチュア手づくね成形	
29	厨台		100		6				ST14(RP291)		
30	壺	(98)	25	123	4		ナデ	ナデ・ハケメ・ミガキ	ST14Y(RP290)		
31		136	27	100	4		ナデ	ハケメ・ケズリ・ミガキ	ST14Y(RP264)	内外面赤彩	
32	甕	(140)					ハケメ・ケズリ		ST14Y(RP296)		
33		(140)			5		ナデ・ミガキ	ミガキ	ST14(RP111)		
34		(135)	45	7			ナデ・ハケメ・ミガキ	ハケメ	ST14F1		
35		(160)	65	8			ハケメ	ハケメ・ミガキ	ST14Y(RP132)		
36	甕	(185)	65	218	7	ケズリ	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	ST14Y(RP263)		
37		(144)			5		ナデ・ハケメ	ハケメ	ST14Y(RP152)	胴部を磁石として使用	
38	甕	(200)			6		ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	ST14Y(RP153)		
39					7				ST14Y		
40					4				ST14F(RP293)		

IV 遺構と遺物

表一(2) 廻り屋遺跡遺物観察表(2)

調査区	遺物番号	種別・器種	計測値(mm)				底部勾配 (特記)	調整技法		出土地点 登録番号	備考	
			口径	底径	器高	器厚		内面	外面			
第15区	41	土師器	壺			5		ハケメ	ハケメ	ST14F(RP16)		
	42	石製品	砥石			94	10			ST14Y	4面使用	
	43					125	26			ST14F2	くぼみ石~砥石	
第19区	44	土師器	壺	(210)			6	ハケメ	ハケメ	ST14Y(RP266)		
	45			(160)			6	ナデ・ハケメ	ミガキ	ST14F(RP268)		
	46			(146)			5	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	ST14F(RP252)		
	47				(85)			8		ミガキ	ST14F(RP269)	
	48				(168)		298	6	ナデ・ハケメ	ハケメ・ケズリ	ST14F1 (RP132-270)	外面スス付着
	49					96		7	ナデ・ハケメ	ハケメ	ST14Y(RP266)	台付壺の脚部
	50					68		7	ナデ・ハケメ	ハケメ・ミガキ	ST14Y(RP268)	外面スス・底部凹
第20区	51	土師器	壺	(134)	60	181	8	ケズリ・ナデ	ナデ	ナデ・ハケメ・ケズリ	ST14Y(RP277)	
	52			(140)	66	182	6	ナデ	ナデ	ナデ・ハケメ	ST14Y(RP278)	
	53			(166)			7	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	ST14Y (RP279・280)	外面砥石・スス付着	
	54			(184)	(75)	263	5	ナデ	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	ST14Y(RP268)	
	55			瓶	(254)	(78)	91	6	ナデ・ケズリ	ナデ	ST14F(RP268)	底部に5孔
	56							7	ナデ	ナデ・ケズリ	ST14F(RP268)	底部に7孔現存
	57					68		6	ナデ	ハケメ	ナデ・ハケメ	ST14F (RP269・314)
第21区	1	土師器	甕台				5		ハケメ	ナデ	ST2Y(RP87)	
	2						6		ナデ・ミガキ		ST3(RP287)	
	3				(35)		7				ST3Y(RP149)	単孔
	4				(160)		10	ナデ	ハケメ・ケズリ		ST3Y(RP20)	
	5					70	5	ハケメ	ハケメ・ミガキ		ST7F1	
	6				(160)		8	ナデ・ハケメ	ハケメ・ケズリ		ST7F1(RP66)	
	7	土師器	壺	(188)			9	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	ST7Y(RP274)	赤彩	
	8	縄文土器					5			ST6(RP242)		
	9					7			ST1Y-C20			
	10					10			ST15F2			
	11	須恵器	台付壺		(80)		6	ヘラ切	ケズリ	ST2F2(RP95)		
	12		高台坏		62		6	ヘラ切		ST2Y(RP265)		
13	あかやき土器	坏	(132)	(52)	48	4	回転糸切	ロクロ	ロクロ	ST1(RP260)		
14	黒色土器		(128)	60	50	4	回転糸切		ST2F1 (RP86-95)	陶黒		
15	須恵器	壺				8	タタキ	タタキ	ST2Y(RP96)			
16	あかやき土器	鍋	(370)		143	9		ケズリ	ST2(RP278)			
17		壺				6			ST2F1			
18	須恵器	壺				4		ケズリ	ST15Y(RP260)			
19	黒色土器	坏	(130)	(84)	45	8	ミガキ	ケズリ	ST15F2	木葉痕有		
20	土師器	壺	(220)		140	5	ナデ	ナデ	ST15F			
第22区	1	土師器	鉢			40	6	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ・ケズリ	ST9F1(RP250)		
	2					62	5	ハケメ	ハケメ	ST9Y(RP250)		
	3			(160)			5	ナデ・ハケメ・ミガキ	ナデ・ハケメ・ミガキ	ST9F1(RP110)		
	4				(120)		7		ミガキ	ST9F1		

表一(3) 廻り屋遺跡遺物観察表(3)

調査 番号	遺物 番号	種 別・器 種	計 測 値(mm)				底部切離 (特記)	調 査 技 法		出土地点 発掘番号	備 考		
			口徑	底徑	器高	器厚		内 面				外 面	
22	5	土師器	台付壺	(134)	85	162	6		ハケメ・ケズリ	ハケメ	ST101(RP250)		
	6		壺				11				ST101(RP110)		
	7		器台				9		ハケメ・ケズリ	ミガキ	ST101(RP54)		
	8		高坏?				27				ST101	脚部	
	9										ST101(RP210)	脚部	
	10		壺				6.5			ハケメ	ST101		
	11		壺		(164)			6		ハケメ	ハケメ	ST101(RP210)	
	12				(114)			3		ハケメ	ハケメ	ST101(RP52-54)	
	13				(136)			6		ハケメ	ナデ・ハケメ	ST101(RP57-100)	指環圧痕有
	14				160			7				ST101(RP50)	輪痕み
	15			(158)			8		ハケメ		ST101		
	16						6		ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	ST101(RP55)		
	17			(166)			7				ST101		
	18						5				ST101(RP50)		
	19			(183)			6				ST101(RP210)		
	20			(145)	(80)	195	8	ナデ	ハケメ・ケズリ	ハケメ・ケズリ	ST101(RP111-114)		
	23	21	須恵器	壺	(30)							ST101P2	
		22		高台坏		75	7		回転糸切			ST101(RP277)	
		23	土師器	坏		(75)	4		回転糸切	ハケメ		ST101Y	ろくろ土師器
		24		高坏			25			ミガキ		ST101F1	棒状脚
25		壺?		(94)			8		ハケメ	ナデ・ハケメ	ST101(RP180)	隆帯有 指圧	
26		台付壺			74		8					ST11F	
23	1	須恵器	坏	(140)	56	42	4	回転糸切	ロクロ	ロクロ	ST101Y		
	(140)			(58)	41	3	回転糸切			ST101Y			
	3		壺		(100)		4					ST101Y(RP255)	
	4				150		5			ケズリ		ST101(RP333)	
	5				(140)	60	45	3.5	回転糸切			ST101Y(RP342)	
	6	あかやき土師器	坏	(140)	60	57	4	回転糸切	ロクロ	ロクロ	ST101(RP350)		
	7				143	60	61	5	回転糸切			ST101(RP350)	
	8	黒色土師器		(120)			4				ST101Y		
	9	土師器		(90)			10			ケズリ	ST101Y(RP345)	こも状E痕	
	10	須恵器	壺	(200)			10		ハケメ	ハケメ	ST101P2		
	11	土師器	壺		(105)		10		ハケメ	ケズリ		ST101(RP250)	隆帯有
	12				(98)		5					ST101Y(RP342)	
	13			あかやき土師器	鍋				7		ハケメ	ハケメ	ST101Y(RP340)
23	14	土師器	器台?						ケズリ	ミガキ	ST101Y		
	15		高坏				7			ミガキ	ST101Y(RP345)		
	16		鉢		(70)		5		ナデ・ハケメ	ハケメ	ST101Y		
	17		器台		(68)		6			ケズリ・ミガキ		ST101F	赤影
	18				(72)	(110)	6			ミガキ	ナデ・ハケメ	ST101(RP340)	
	19				(100)		6			ハケメ・ミガキ	ハケメ	ST101P(RP50)	

IV 遺構と遺物

表一(4) 廻り屋遺跡遺物観察表(4)

調査 番号	遺物 番号	種 別・器 種	計 測 値(mm)				底部切離 (特記)	調 整 技 法		出土地点 登録番号	備 考		
			口径	底径	器高	器厚		内 面	外 面				
第22回	20	土師器	器台	80	(134)	87	4		ハケメ・ミガキ	ナデ・ハケメ・ミガキ	ST18Y(RP37)		
	21			86	(128)	78	5		ハケメ	ナデ・ハケメ・ケズリ	ST18Y(RP38)		
	22		壺			78		7			ST18F	底部転載有	
	23		鉢			(86)		6	ハケメ	ハケメ	ST18F1(RP121)		
	24		甕	164				4.5	ハケメ	ナデ・ハケメ	ST18Y	平安期の土師器か？	
第24回	1	土師器	高環	(120)			6		ナデ	ナデ	ST19(RP160)		
	2			(110)			4		ナデ	ナデ・ミガキ	ST20 柱穴	EP4覆土	
	3						5		ケズリ		ST20F1(RP1)		
	4			(98)			5				ST20F1(RP2)		
	5		壺	(112)	95				ナデ	ハケメ	ナデ・ハケメ	ST20 柱穴	EP4覆土
	6		高環							ミガキ	ミガキ	ST20F1(RP1)	
	7								ケズリ	ミガキ	ST20F1(RP20)		
	8		器台						ケズリ・ミガキ	ミガキ	ST20F1(RP2)		
	9		高環		(110)			6	ハケメ	ミガキ	ST20F1(RP1)		
	10		壺	(184)	54			5	ナデ	ハケメ	ハケメ	ST20F1(RP200)	
	11			(198)				4	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	ST20F1(RP2)	外面ス付管
	12		器台							ミガキ	ST21Y	赤彩	
	13		壺	(240)	90	315		6	ハケメ	ハケメ	ST21Y(RP334)	外面ス・内面輪模	
	14		縄文土器	深鉢取手							ST20F1(RP258)		
第25回	1	土師器	埴？				5		ナデ・ハケメ	ST22F1(RP195)			
	2		高環				5		ミガキ	ST22F1(RP188)			
	3		壺		71			6	ハケメ	ハケメ	ST22F1(RP200)		
	4			(145)	53		7	ハケメ	ハケメ・ケズリ	ST22F1(RP200)	輪模小斑		
	5		埴	(25)			4		ミガキ	ケズリ・ミガキ	ST24	平底	
	6	須恵器	環	(138)	(50)		3	回転未切	ロクロ	ロクロ	ST23Y(RP261)		
	7			(148)	50	43	4	回転未切	ロクロ	ロクロ	ST23F1		
	8			(140)	64	45	5	回転未切	ロクロ	ロクロ	ST23(RP266)		
	9			高台付皿	126	83	23	5	回転未切	ロクロ	ロクロ	ST23Y(RP341)	内面転用模
	10	あかやき土器	壺	(138)	(70)	142	5	回転未切	ロクロ	ロクロ	ST23F1(RP26)		
	11	土師器	器台								ST19F2(RP160)	首飾り？	
12	高環									ST19F2(RP160)			
13	黒色土器	高台環	(140)	(72)	70	4	ケズリ・ナデ	ロクロ	ロクロ	ST12Y	内黒		
14	土師器	壺		(120)		4	ナデ	ナデ・ハケメ	ナデ	ST12Y	編代底・内面輪模		
15	石製品	砥石			110	45					ST24F		
16						160	67					ST18F1(RP275)	
第26回	1	土師器	壺？		50		6	ナデ	ハケメ	ハケメ	ST12Y(RP120)		
	2		高環				5			ミガキ	ST19F1(RP170)	外面赤彩	
	3		壺	(200)			7		ハケメ	ナデ	ST19F1(RP171)		
	4								ハケメ	ハケメ	ST19F2(RP171)		
	5		環	(150)	(25)	66	5		ミガキ	ミガキ	E-18-19	S字口縁	
	6		環	(130)			5		ミガキ	ミガキ	F-1-D-13	外面赤彩	

表一(5) 廻り屋遺跡遺物観察表(5)

発掘 層号	遺物 番号	種 別・器 種	計 測 値(mm)				底部切離 (特記)	調 整 技 法		出土地点 登録番号	備 考		
			口径	底径	器高	器厚		内 面	外 面				
第 II 層	7	土師器	壺	(140)				ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	B-6			
	8		壺	(133)			5	ナデ・ハケメ	ハケメ	D-15	口縁に工具の刺突		
	9		壺	(200)					ナデ	D-13(RP202)	二重口縁		
	10	中世陶器	ナリ鉢				10			C-15(RP185)			
	11	縄文土器								A-9			
	12									D-1			
	13									ST12(RP14)			
	第 III 層	14	土師器	壺						ハケメ	D-3	赤彩か?	
		15		坏	(138)	(50)	59		ナデ・ハケメ	ハケメ・ミガキ	E-19		
		16	あかやき土器	坏	(152)	60	45	4	回転糸切	ロクロ	ロクロ	C-12(RP267)	底部物有付着
		17		高台坏	(140)			4		ロクロ	ロクロ	B-4	
		18		坏	(166)	(60)	45	6	回転糸切	ロクロ	ロクロ	E-6	
		19		高台坏			58		5	回転糸切	ロクロ	ロクロ	E-17
20		壺		(204)				8	ハケメ	ケズリ	D-15		
21		壺		(200)				5	ロクロ	ロクロ	E-18		
第 IV 層		1		あかやき土器	坏	(146)	(60)	60	5	回転糸切	ロクロ	ロクロ	C区 川上層
	2	高台坏			(62)			7	ロクロ	ロクロ	B-4(RP10)		
	3	土師器	坏					3			SS00N77クド		
	4		瓶		(48)					ハケメ	B4		
	5		器台	82				9	ミガキ	ミガキ	BE		
	6		鉢	(76)	(50)	43		5	ハケメ	ナデ	C-13(RP186)	手づくね形成	
	7		高坏					13	ケズリ	ケズリ・ミガキ	X-0		
	8		高坏					32		ミガキ	C-5		
	9		高坏					32			B-4(RP7)		
	10	器台						ナデ	ミガキ	B-4			
	11	台付壺								C区 川底層			
第 V 層	12	土師器	高坏						ハケメ・ミガキ	ハケメ	E-11		
	13		壺					6			C-12(RP46)		
	14		壺					6			ST11(RP267)		
	15		壺?	(178)				10		ミガキ	D-3(RP159)	内面赤彩	
	16		壺					10	ミガキ	ハケメ	B区		
	17		壺					9			B1(RP45)		
	18		板状	85	14			5			D-3(RM5)		
19	棒状	53	11			8			A-9(RM4)				
20	鉄製品	板状	54	32			5			D-3(RM3)			
21		棒状	50	25			6			ST19P2(RM1)	RP135と伴出		
22		板状	65	35			3			ST22(RM2)	縄土中より出土		
23	土製品	土玉				34	32			C-14・C-15			
24	石製品	砺石					75	21			D-15(RQ75)		
25							117	50			D-11(RP125)		
26							50	19			A-12		
27			磨製石斧				72	14			A-13		

IV まとめ

一般国道287号道路改良工事に伴い、遺跡全体の約10%を調査したに過ぎないが、黒塚館跡や岡ノ台遺跡の調査成果とともに、白鷹町内の最上川右岸の段丘上に早い時期から古墳文化が根付いていたことが裏付けられた。以下項目ごとに要約する。

1) 古墳時代に関しては12軒の堅穴住居跡が確認され、特にST14床面からはほとまりのある土器群が出土し、埴釜式における辻氏の編年でIII-2期に相当すると思われる、北陸系の土器や、S字口縁を有する土器が検出されている。ST7・9出土の土器群には、口縁部に折り返しの明瞭な稜を持つ壺などがあることから、ST14出土の土器群より一時期遡る可能性がある。

2) 平安時代に関しては8軒の堅穴住居跡が確認された。このなかで、ST2・15の土器群は底部の切り離しにヘラ切りがあり、口径に比して底径がやや大きい。これに対してST16・17・23出土の土器群は底部がほとんど回転糸切りによるもので、口径に比して底径が大きい。時期は前者が9世紀、後者が10世紀頃と推定される。

3) ST14出土土器について

ST14出土の土器を器台・高坏・坏・鉢・埴・甕・壺の8器種に分類した。

器台(A)は主に坏部の分類から、S字口縁を持つA1、坏部に稜を持つA2、坏部が丸みを持って外反するA3、坏と脚部が「X」字状をなすA4の4類に細分した。さらにA1からA3は脚部に穿孔を有するa、と有しないbに区分が可能である。

高坏(B)は、脚部が「H」字状に広がるB1(ST9等から出土)、棒状中央のB2、中空状脚部のB3(ST20等から出土)の3類に細分できる。

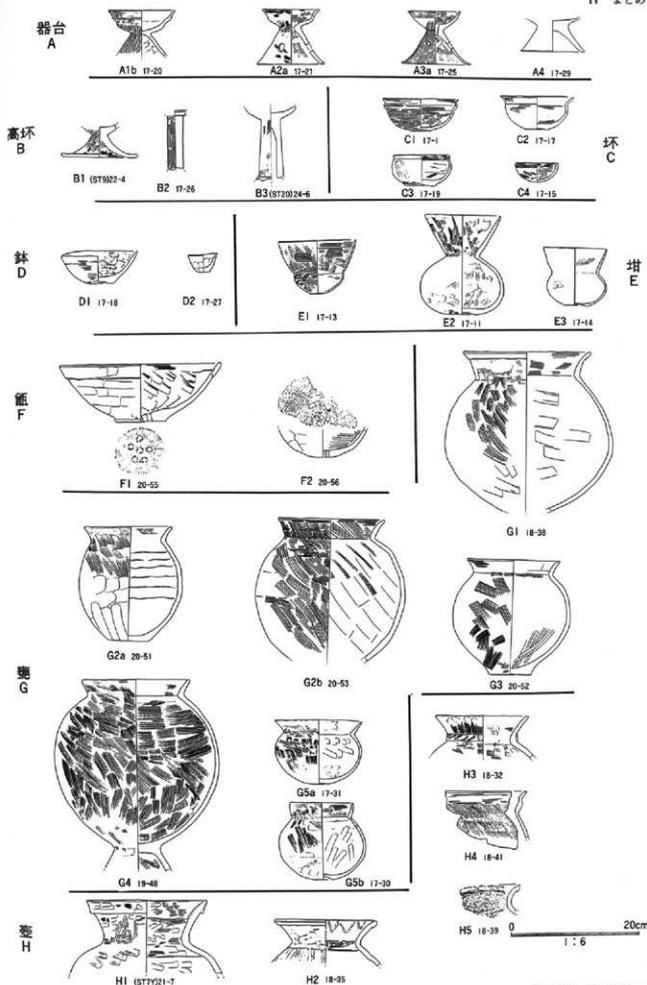
坏(C)は、S字口縁を持つC1、口縁が屈曲し、丸底の中央がくぼむC2、平底のC3、丸底のC4の4類に細分できる。鉢(D)は、平底で中央部がくぼむD1、小型で手づくね成形平底のD2の2類がある。埴(E)は、器台との対応関係がうかがえるE1、長頸の口縁部を持つE2、比較的短い頸部を持つE3の3類がある。甕(F)は、複合口縁で平底のF1と、丸底のF2の2類がある。

壺(G)は、複合口縁で折り返し状の口唇を持つG1、単純口縁で口縁部が「く」字状に屈折して外反するG2がある。G2は体部が長胴形を呈するaと体部が球形を呈するbに細分される。さらにG2と同じく単純口縁だが、口縁部がゆるやかに外反する平底の壺のG3、台付型のG4、小型の丸底壺をG5の5類がある。G5は口縁部が「く」字状に外反するaと、口縁部がゆるやかに内湾するbに区分した。なおG1は壺の可能性もあるが、頸部があまり屈曲せずに、G3に似た器形を呈することから壺に分類した。

壺(H)は、複合口縁で折り返し状になるH1(ST7から出土)。H1の口縁に山形の刺突文が加わるH2、口頸部に刺突を施した隆帯が巡るH3、口縁部がS字状を呈するH4、外反する口縁部端に面を形成するH5(能登形壺)、口縁部が「く」字状に屈折して外反するH6の6類に分類した。H6はさらに胴が球形を呈するaと、長胴形のbに区分した。なおST14からは、有段口縁の壺は出土しなかった。

【参考文献】

- 山形県教育委員会(1986) 野村台遺跡発掘調査報告書 山形県埋蔵文化財調査報告書第31集
宮城県教育委員会(1985) 今和野遺跡・一本杉遺跡・馬越石塚 宮城県文化財調査報告書第104集
山形考古学会(1986) 山形県考古学第28回研究大会発表資料集
日本考古学協会新大会実行委員会(1993) 新編大会シンポジウム2 東日本における古墳出現過程の再検討
山形県埋蔵文化財センター(1994) 今和野発掘調査報告書 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第7集
山形県埋蔵文化財センター(1994) 岡ノ台遺跡発掘調査報告書 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第15集
山形県埋蔵文化財センター(1994) 黒塚館跡発掘調査報告書 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第16集



第28図 土器分類図

報告書抄録

ふりがな	めぐりや いせ屋 せつこうちようせつりくしよ							
書名	廻り屋遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第27集							
編著者名	鈴木良仁・川田嘉信							
編集機関	財団法人 山形県埋蔵文化財センター							
所在地	〒999-31 山形県上市市弁天二丁目15番1号 TEL 0236-72-5301							
発行年月日	西暦1995年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
めぐりや 廻り屋	山形県西置賜 郡白鷹町大字 荒砥甲字廻り 屋	6402	平成元年 度登録	38度 10分 41秒	140度 05分 55秒	19940725～ 19941014	3,000	一般国道 287号線 道路改良工事 (耕熟地区)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
廻り屋	集落跡	縄文時代 中期		縄文土器、磨製石斧				
		古墳時代 前期	竪穴式住居跡	12棟	土師器、磁石	14号住居跡から古墳時 代前期の土器が多数出 土		
			河川跡	1条				
		その他	土壇・ピット など					
平安時代	竪穴式住居跡	8棟	土師器、あかやき土器、 須恵器、土製品金属品	集落の一部である竪穴 式住居跡群を検出				
	河川跡	1条						
その他	土壇・ピット など							
時期不明	掘立柱建物跡	掘立柱建物跡	2棟					
		竪穴式住居跡	4棟					
		井戸跡	1基					

図 版



調査区全景北から (空中写真)



調査区全景西から (空中写真)



空中写真(真上から) 縮尺1/180



空中写真(真上から) 縮尺1/180



調査区遠景(北西から)



調査区遠景(東から)



面整理状況(南から)



B区調査状況



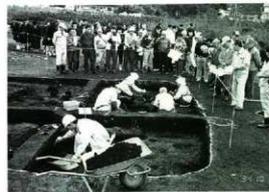
C区面整理状況(西から)



C区断面図作成状況(東から)



ST9調査風景(南から)



現地説明会風景



ST1完掘状況 (南から)



ST3 (手前) ST2完掘状況 (北から)



ST4完掘状況 (東から)



ST2-3完掘状況



ST6完掘状況 (南から)



ST7完掘状況 (南から)



ST8完掘状況 (西から)



ST9遺物出土状況 (上面)



ST9完掘状況 (南から)



ST10完掘状況 (西から)



ST11完掘状況 (南から)



SX5完掘状況



ST12-13完掘状況 (西から)



ST14-15遺物出土状況 (上面)



ST14完掘状況 (北東から)



ST14完掘状況 (南東から)



ST14完掘状況 (東から)



ST16完掘状況 (西から)



ST17カマド検出状況 (南東から)



ST18完掘状況 (東から)



ST19完掘状況 (東から)



ST20完掘状況 (西から)



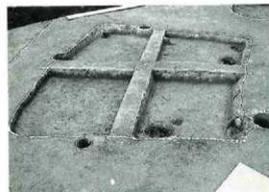
ST21完掘状況 (東から)



ST22完掘状況 (南から)



ST23完掘状況 (南から)



ST25完掘状況 (南東から)



ST28完掘状況 (東から)



ST14床面遺物出土状況



ST24完掘状況 (南から)



SX27完掘状況 (南から)



ST7床面遺物出土状況



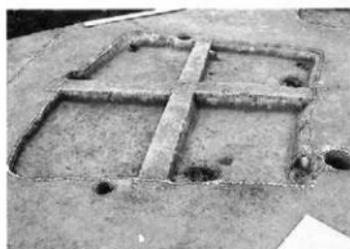
ST14床面遺物出土状況



ST23完掘状況（南から）



ST24完掘状況（南から）



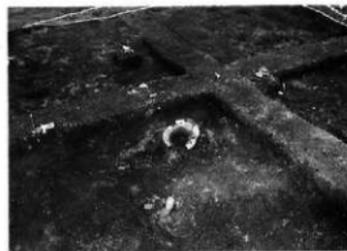
ST25完掘状況（南東から）



SX27完掘状況（南から）



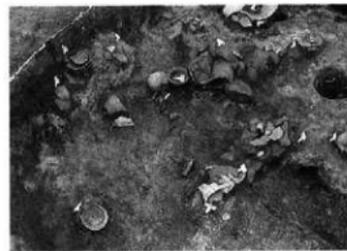
SX28完掘状況（東から）



ST7床面遺物出土状況



ST14床面遺物出土状況



ST14床面遺物出土状況



ST14床面遺物出土状況



ST14床面遺物出土状況 (18-38)



ST14床面遺物出土状況 (17-11、17-30)



ST14床面出土状況 (17-14、18-38)



ST14床面遺物状況 (17-13)



RP337出土状況 (ST18床面)



RP338出土状況 (ST18床面)



RP337-338出土状況 (ST18床面)



SB1 検出状況 (北西から)



SB1 完掘状況 (南東から)



SB2 完掘状況 (南東から)



C区完掘状況 (北から)



河川跡・土層断面 (南東から)



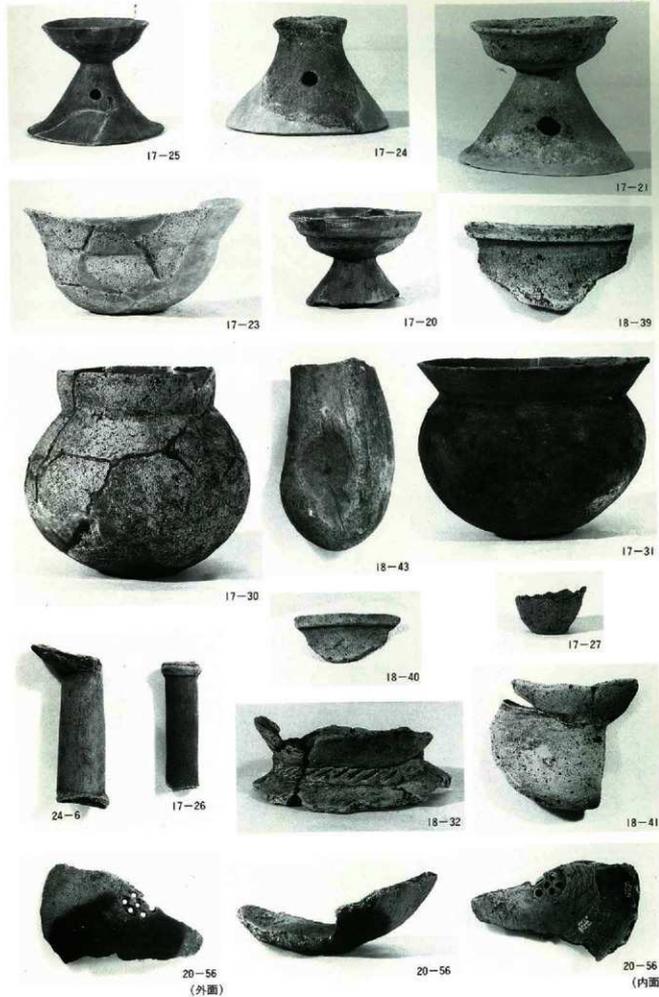
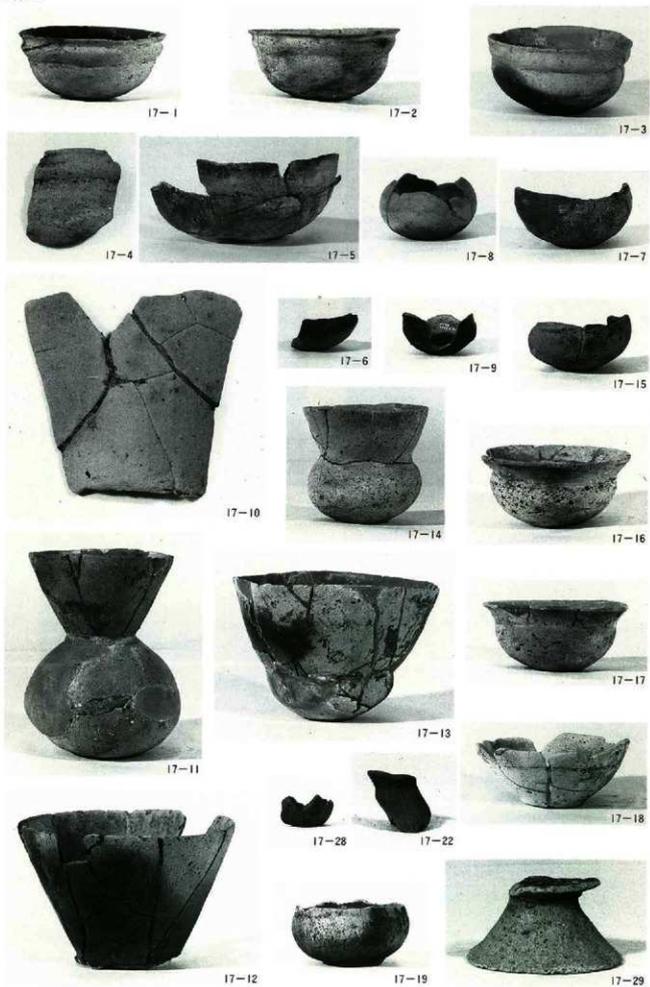
礫検出状況 (北から)



SP5004 完掘状況 (RP182)



EB5019 土層断面 (SB1)





18-36



18-37



18-33



18-35



18-38



19-48



19-45



19-49



19-46



19-50



19-47



23-22



19-45



19-49



19-46



19-50



19-47



23-22



20-52

20-54



21-3

21-13



20-55



21-1



20-55
(外面)



20-51



21-12

21-11



21-14

23-2



21-4



21-6



21-19



21-15



21-7



21-5
(内面)



21-16



21-10



22-1



22-2



22-3



22-5



22-4



22-9



22-8



22-7



22-6



22-10



22-25



22-11



22-17



22-16



22-13



22-19



22-14



23-7



23-16



23-21



23-12



23-18



23-20



23-4



23-17



23-23
(内面)



23-23
(外面)



23-19



23-5



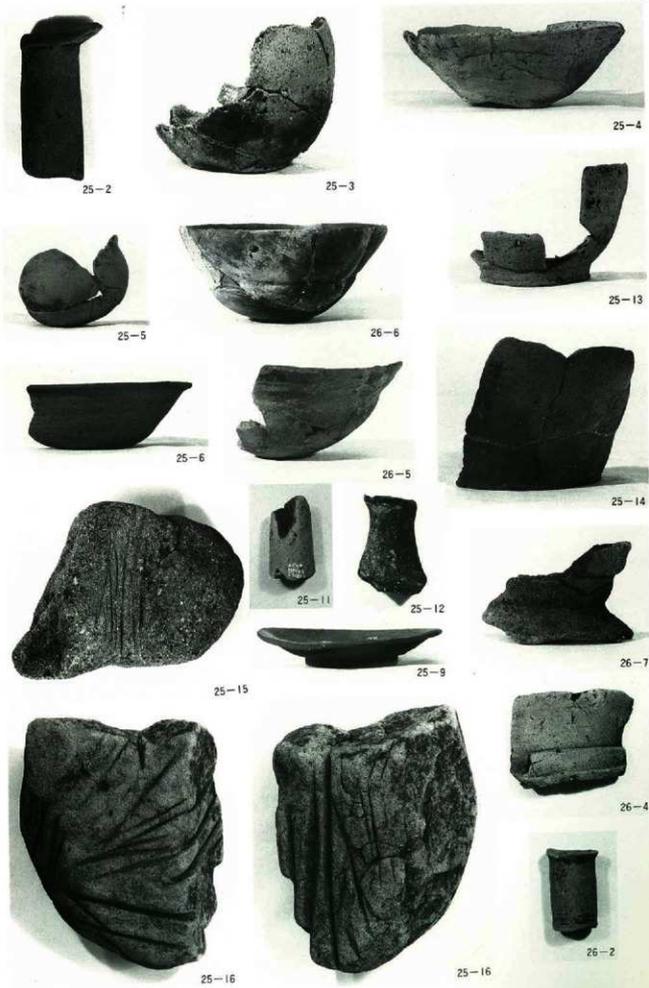
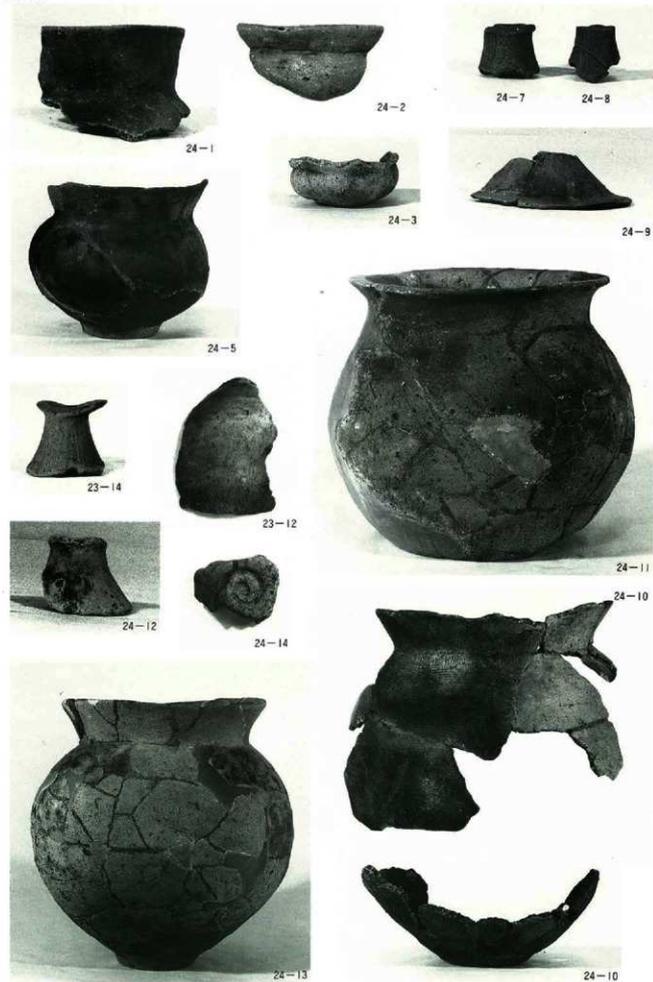
22-20

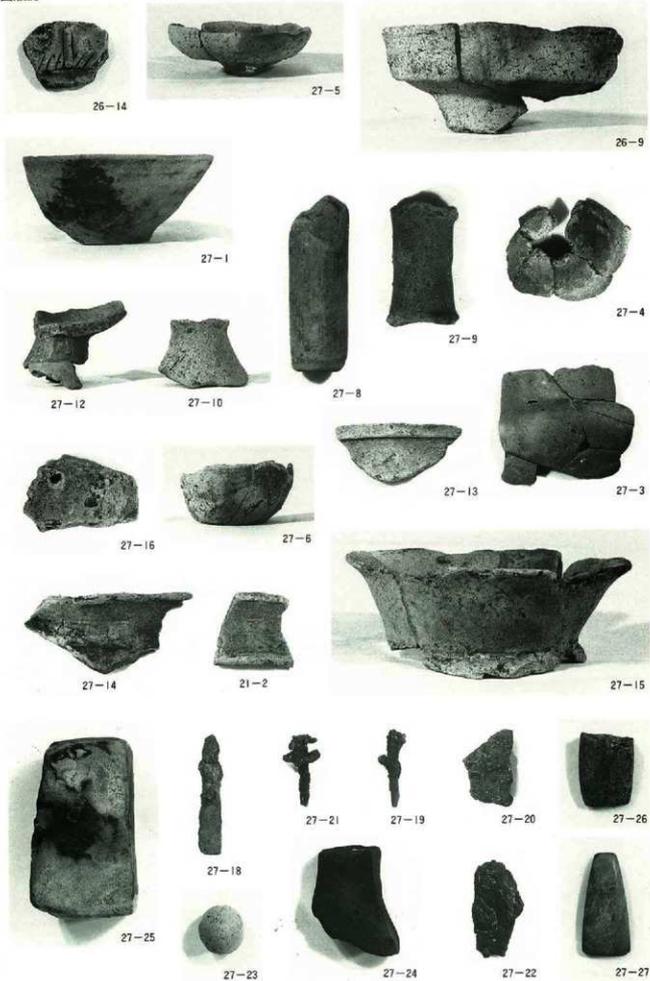


23-15



23-24





山形県埋蔵文化財センター調査報告書第27集

廻り厩遺跡発掘調査報告書

平成7年3月25日 印刷

平成7年3月31日 発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター

印刷 山形印刷株式会社

1995 - 784